

平成 26 年 5 月 1 日

多賀城市長
菊地 健次郎 殿

特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター
代表理事 大 滝 精 一 印

多賀城市市民活動サポートセンター 平成 25 年度運営業務成果報告書

平成 25 年度多賀城市市民活動サポートセンターの運営業務については、以下の通り報告いたします。

特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター
担当理事（代表理事）：伊藤浩子
宮城県仙台市青葉区大町 2-6-27 岡元ビル 7F
TEL 022-264-1281 FAX 022-264-1209
E-mail minmin@minmin.org

多賀城市市民活動サポートセンター 平成 25 年度運営業務成果報告書

平成 25 年度ダイジェストでふりかえる	3
----------------------	---

I 平成 25 年度運営業務報告

1. 平成 23～25 年度震災復興支援方針および平成 25 年度施設運営方針	8
2. 運営状況	
(1) 利用状況集計	
1) 主な項目の利用状況推移（平成 20 年度～25 年度）	11
2) 情報関連業務利用状況推移（平成 20 年度～25 年度）	12
3) 利用状況集計	13
4) 利用団体の属性	14
5) 利用団体の活動分野	15
(2) サービスごとの利用状況	
1) 団体情報ファイル	16
2) 展示スペース利用状況	19
3. 事業実施状況	
平成 25 年度事業一覧	21
(1) 参加・育成事業	
1) サロン系事業	22
2) はじめる広場トークタイム	26
3) 「tag」発行事業	30
(2) 自治活動支援事業	
1) 小さなプロジェクトを起こそうプロジェクト	35
2) 活動お役立ち専門相談	39
(3) 5 周年記念事業	
5 周年記念事業	44
(4) 市職員研修事業	
市職員研修	45
(5) 事務ブース入居団体インキュベート相談	46
(6) 出前さぽせん	48
(7) ホームページ・ブログ・ツイッターの運用	50
(8) たがサポ文庫の運用【自主事業】	52

4. 相談対応実績	
（１）相談対応の流れ	54
（２）相談対応実績	55
（３）相談件数	56
（４）市民活動相談の内訳	58

Ⅱ 平成 25 年度成果と課題・平成 26～28 年度施設運営方針

1. 平成 25 年度成果と課題	62
2. 多賀城市の現状	65
3. 平成 26～28 年度施設運営方針	66

Ⅲ 添付資料

各事業チラシ・配布資料等

身近なテーマで 市民が地域とつながる場を生み出しました。

多賀城市市民活動サポートセンター（以下、たがさぼ）は、平成 25 年度、『市民とともにまちの「広場」を創造・推進し、地元の人が主役となる地域づくりを進める』ことを方針に掲げた。しかし、6 月から改修工事が行われ、情報コーナーの縮小や貸室の限定的な貸出、臨時休館、事務所の移動、騒音への対応など従来のサービスが提供できず、思うような施設運営が困難であった。その中でも将来地域づくりの担い手となるであろう人材の発掘・育成やボランティアへの参加の機会の提供、ネットワークの構築、既存の市民活動団体の成長につながる力づけを行った。

たがさぼ 3 大ニュース

①新たな地域づくりの担い手発掘と参加の機会創出

今年度、新たに取り組んだサロン系事業で、「食」「環境」「雑貨」などをテーマに潜在的活動者・無関心層に向けて市民活動との出会いの場をつくり、将来的な地域づくりの担い手となりうる人材の発掘につとめた。地元で活躍するゲストを招いた「はじめる広場トークタイム」では、参加者が市民活動への理解を深めることにつながり、既存団体の活動に参加するきっかけをつくった。

②開館から 6 年の成果を冊子に

地域づくりの拠点として、たがさぼがこれまで果たしてきた役割や成果を NPO、生涯学習団体、自治会・町内会、企業など多様な地域づくりの担い手へのインタビューをもとに冊子『たねまくー地域づくり 17 のエピソード』（2,000 部）としてまとめた。これから地域づくりに関わろうとする市民やすでに活動している市民・団体を主な対象に、活動をはじめるきっかけやエネルギーとなる情報を届ける。

③改修工事で施設の可能性が広がる

平成 25 年 6 月から平成 26 年 3 月までに行われた改修工事によって新たにエレベーターが設置され、高齢者や障がい者を含む市民誰もが利用しやすい施設となった。また、新たなフリースペースも生まれ、展示、作業場、サロン、ミニイベントなど活用方法の可能性が広がった。

たがさぼ平成 25 年度の主な出来事

平成 25 年

4 月

- 5 日 多賀城市新採用職員見学
- 20 日 情報誌「tag」発行（毎月 15 日・2,000 部）
- 27 日・28 日 出前さぼせん | 多賀城復興横丁わいわい村 1 周年記念「わいわい祭り」

5 月

- 11 日 はじめる広場トークタイム vol.1
ゲスト：丑田明希さん（みんなのマルシェ実行委員会）
- 13 日 陸前高田まちづくり協働センター視察

6 月 ※改修工事着工

- 1 日 出前さぼせん | みんなのマルシェ
- 15 日 活動お役立ち専門相談「プロが教えるチラシづくり実践講座」
講師：大泉浩一さん（一般社団法人メディアデザイン）

7 月

- 19 日 みさと地域活動サポートセンター 視察
- 26 日 事務用ブースインキュベート相談会
- 29 日 市民セクターよこはま視察

8 月

- 3 日 活動お役立ち専門相談「NPO の資金づくり個別相談会」
相談員：鈴木祐司さん（一般財団法人地域創造基金みやぎ事務局長）
- 31 日 サロン系事業「誰でもかんたんかわいい自分だけのタンブラーづくり」
ゲスト：岸恵理さん（公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク）

9 月

- 7 日 はじめる広場トークタイム vol.2
ゲスト：土生浩子さん 阿部知子さん（ココロのびのび★プラネット）
- 13 日 大船渡市民活動支援協議会視察

10 月

- 1 日 山口市地域づくり支援センター視察
- 6 日 活動お役立ち専門相談「会議の進め方講座」
講師：真壁さおりさん（NPO 法人地星社副代表理事）

14 日 出前さぽせん | スポーツフェスティバル

18 日 事務用ブースインキュベート相談会

26 日 サロン系事業第 2 回「多賀城の食」

ゲスト：TAP 多賀城／NPO ゲートシティ多賀城／レインボー多賀城

11 月

8 日 はじめる広場トークタイム vol. 3

ゲスト：和久由紀恵さん（わくわく文庫）

26 日 小さなプロジェクトを起こそうプロジェクト「市民ライター養成講座」①

講師：菊地正宏さん（仙台経済新聞編集長）

26 日・28 日 市民参画と協働に関する職員研修

29 日 活動お役立ち専門相談「情報発信初級講座」

講師：伊東利光さん（一般社団法人メディアデザイン）

12 月

7 日 サロン系事業第 3 回「クリスマス雑貨市」

13 日 はじめる広場トークタイム vol. 4

ゲスト：後藤晃治さん（多賀城災害ボランティアネットワーク代表）

16 日 事務用ブースインキュベート相談会

20 日 小さなプロジェクトを起こそうプロジェクト「市民ライター養成講座」②

講師：菊地正宏さん（仙台経済新聞編集長）

平成 26 年

1 月

18 日 写真で見つける昭和の多賀城講座①

講師：佐藤正実さん（NPO 法人 20 世紀アーカイブ仙台副理事長）

2 月

8 日 写真で見つける昭和の多賀城講座②

講師：佐藤正実さん（NPO 法人 20 世紀アーカイブ仙台副理事長）

18 日 活動お役立ち専門相談「活動と仲間が広がる個別相談会」

相談員：小野寺美厚さん（NPO 法人ネットワークオレンジ代表理事）

21 日 はじめる広場トークタイム vol. 5

ゲスト：下澤大祐さん 奥村典弘さん 小杉厚貴さん 吉田愛理さん

（一般社団法人復興応援団）

22 日 サロン系事業第 4 回「猫と探るまちのはなし」

ゲスト：米倉由梨さん 大泉由紀子さん（わんにゃん仲良しクラブ）

3 月 ※改修工事終了

20 日 小さなプロジェクトを起こそうプロジェクト

「まちをおもしろくする手づくりイベントのはじめ方」

ゲスト：阿部結悟さん（まちフェス～伊達ルネッサンス事務局）

I

平成 25 年度
運營業務報告

1. 平成23～25年度震災復興支援方針 および平成25年度施設運営方針

多賀城市市民活動サポートセンター（以下、TSC）は、平成23年度の成果・課題と多賀城市の現状から、平成23年度施設運営方針で定めた4つの方針を単年度ではなく中期的な取り組みとして、平成23～25年度までの中期の方針として位置づけしなおし、継続的に取り組んできました。

<平成23～25年度震災復興支援方針>

1. 私たちは、被災者とNPO・NGO、企業の活動をつなぎ、支援します。
2. 私たちは、被災地における「自治力回復」を粘り強く支援します。
3. 私たちは、地域活動と市民活動に関わる復興情報の収集と発信に努めます。
4. 私たちは、行政と市民・企業の力をつないで、多賀城市の復興の推進力を生みだします。

開館以来当センターが取り組んできた「市民力・自治力の向上」という不変のテーマをもとに、平成24年度のふりかえりを踏まえ、平成23～25年度震災復興支援方針の2・3の2つに重点においた平成25年度施設運営方針を以下のように定めました。

<平成25年度施設運営方針>

市民とともにまちの「広場」を創造・推進し、 地元の人が主役となる地域づくりを進めます。

地域活動や市民活動に関する人や情報が集まり、そこにはだれでも自由にアクセスができ、その中から新しい活動が生まれるような場を「広場」といいます。「広場」自体は目的のないゆるやかな人の集まりです。「広場」で人と人が出会い、地域の状況や課題を共有することが新たな活動を生み出します。

平成24年度よりTSCは、TSCの「広場」としての力を高めるとともに、多賀城のまちにさまざまな「広場」をつくることを推進しています。

平成25年度も引き続き、TSCは多賀城のまちに多種多様な人が集まるさまざまな「広場」をつくることで、地域や社会の課題解決のために活動する人を増やし、多賀城のまちの力につなげます。

そのために、以下の4つの方針のもと施設運営を進めてきました。

イ. 地域づくりを担う新たな「人づくり」と「場づくり」を応援します。

多賀城のまちの姿を考えたときには、地域づくりを担う新たな人材、特に若い世代の活躍が欠かすことができません。まずは市民が興味・関心を寄せるさまざまなテーマでゆるやかに集まり、出会い、対話し、学び、情報の集まる場づくりを応援します。そこから徐々に地域や社会の課題に関心を持つことにつながり、課題解決の力になる人づくりをめざします。

ロ. 力強い市民活動を実現していくために組織運営の強化を応援します。

専門性を持つNPOと自治会・町内会とがお互いに力を発揮することで、地域の課題解決が進むなどの相乗効果を生み出します。互いが力を発揮するためにも必要なNPOと自治会・町内会双方の組織運営の強化を応援します。

ハ. 多種多様な情報発信を強化します。

TSCは、地域活動・市民活動の新たな担い手の発掘につなげようと、若い世代にターゲットを絞った新たな情報誌を発行し、ブログ・ホームページとを連動させることで情報発信を強化します。

引き続き、地域活動・市民活動に関する情報を対象者に合わせて届けることで新たな担い手発掘につなげます。

二. 地域づくりに関わる人と組織をつなぎ、復興に必要な「側面支援」を果たします。

これまで地域支援員や仮設住宅支援に携わる団体・機関と築いてきた関係をもとに、また、せんだい・みやぎNPOセンターの持つ市外の復興支援に取り組む団体とのネットワークを活かし、復興に向けた課題を解決するための側面支援を行います。

以上の方針を踏まえ、2. 運営状況および3. 事業実施状況を報告します。

2. 運営状況

(1) 利用状況集計

1) 主な項目の利用状況推移(平成20年度～25年度)

		貸室		フリースペース			印刷機		情報揭示	パソコン	相談対応		レターケース	総利用	
		利用件数	利用人数	利用件数	利用人数	カウント数	利用件数	利用枚数	受付件数	利用件数	件数	人数	取扱数	件数	総数
		件	人	件	人	人	件	枚	件	件	件	人	件	件	人
平成20年度		972	13,170	125	404	959	378	218,318	878	190	297	346	189	3,065	14,001
平成21年度		1,366	18,992	90	220	1,337	551	342,248	1,031	356	309	374	437	4,162	19,641
平成22年度		1,242	16,229	87	251	1,168	619	361,553	1,267	168	354	397	195	3,944	16,951
平成23年度		1,971	26,769	149	539	1,596	801	479,306	1,186	195	527	647	260	5,100	28,015
平成24年度		1,889	22,922	229	597	1,646	918	603,693	1,385	288	287	375	537	5,543	23,951
平成25年度	4月	152	1,824	24	62	195	111	110,777	109	36	11	11	37	480	1,897
	5月	148	1,750	26	68	142	81	69,687	118	17	34	39	26	451	1,863
	6月	150	2,042	22	51	116	70	34,750	139	17	35	55	86	520	2,149
	7月	144	1,657	18	74	126	74	57,933	122	7	26	57	25	422	1,799
	8月	139	1,702	9	28	80	63	29,048	137	16	27	35	44	435	1,765
	9月	147	1,768	19	54	108	79	47,598	157	6	16	16	33	458	1,845
	10月	155	1,555	13	27	80	83	69,395	152	0	8	9	104	516	1,594
	11月	86	1,119	0	0	34	45	20,784	143	0	13	14	56	343	1,133
	12月	88	1,295	0	0	24	40	23,519	115	2	18	20	63	328	1,319
	1月	64	523	3	11	58	41	29,951	144	1	18	24	60	331	558
	2月	85	611	5	21	88	52	34,159	115	5	11	15	138	411	647
	3月	84	642	4	14	86	68	48,851	136	7	9	11	29	337	667
平成25年度計		1,442	16,488	143	410	1,137	807	576,452	1,587	114	226	306	701	5,032	17,236
前年度比		76%	72%	62%	69%	69%	88%	95%	115%	40%	79%	82%	131%	91%	72%
総計		8,882	114,570	823	2,421	7,843	4,074	2,581,570	7,334	1,311	2,000	2,445	2,319	26,846	119,795

※利用件数・人数は利用票提出分
 ※カウント数はスタッフによる定時見回り時ののべ人数
 ※交流サロンは改修工事のため使用停止中

※改修工事のため9月中旬より11月下旬まで使用停止

改修工事に伴い、機能によっては提供できない期間があったため、利用は全体的に減少している。そのような中でもレターケースの取次件数が増加したことから、市民活動団体の拠点としての機能は果たしたといえる。

2) 情報関連業務利用状況推移(平成20年度～25年度)

		印刷機		コピー機	パソコン	情報揭示					貸出図書		
		利用件数	枚数	利用枚数	利用件数	チラシ	団体パンフレット	ポスター	ニューズレター	計	登録者数	貸出件数	貸出冊数
		件	枚	枚	件	件	件	件	件	件	人	件	冊
平成20年度		378	218,318	4,767	190	496		105	277	878			
平成21年度		551	342,248	5,708	356	544		103	384	1,031	37	100	132
平成22年度		619	361,553	4,689	168	649		140	478	1,267	19	132	109
平成23年度		801	479,306	5,355	195	572		118	496	1,186	24	76	116
平成24年度		918	603,693	7,677	288	549	106	167	563	1,385	29	122	158
平成25年度	4月	111	110,777	414	36	33	18	18	40	109	4	20	29
	5月	81	69,687	412	17	46	9	13	50	118	3	8	12
	6月	70	34,750	307	17	58	14	12	55	139	2	9	12
	7月	74	57,933	734	7	51	8	12	51	122	1	11	13
	8月	63	29,048	364	16	60	5	15	57	137	2	10	13
	9月	79	47,598	738	6	86	10	7	54	157	0	10	15
	10月	83	69,395	686	0	79	8	7	58	152	0	4	4
	11月	45	20,784	240	0	67	4	11	61	143	0	4	5
	12月	40	23,519	256	2	39	11	9	56	115	0	5	9
	1月	41	29,951	83	1	68	6	16	54	144	3	11	15
	2月	52	34,159	292	5	63	4	4	44	115	2	4	6
	3月	68	48,851	304	7	47	12	12	65	136	1	2	4
平成25年度計		807	576,452	4,830	114	697	109	136	645	1,587	18	98	137
前年度比		88%	95%	63%	40%	127%	103%	81%	115%	115%	62%	80%	87%
総計		4,074	2,581,570	33,026	1,311	3,507	215	769	2,843	7,334	127	528	652

※平成24年度から、パソコンの利用件数は「作業」「インターネット」を分けずに集計する。

※平成21年6月開設

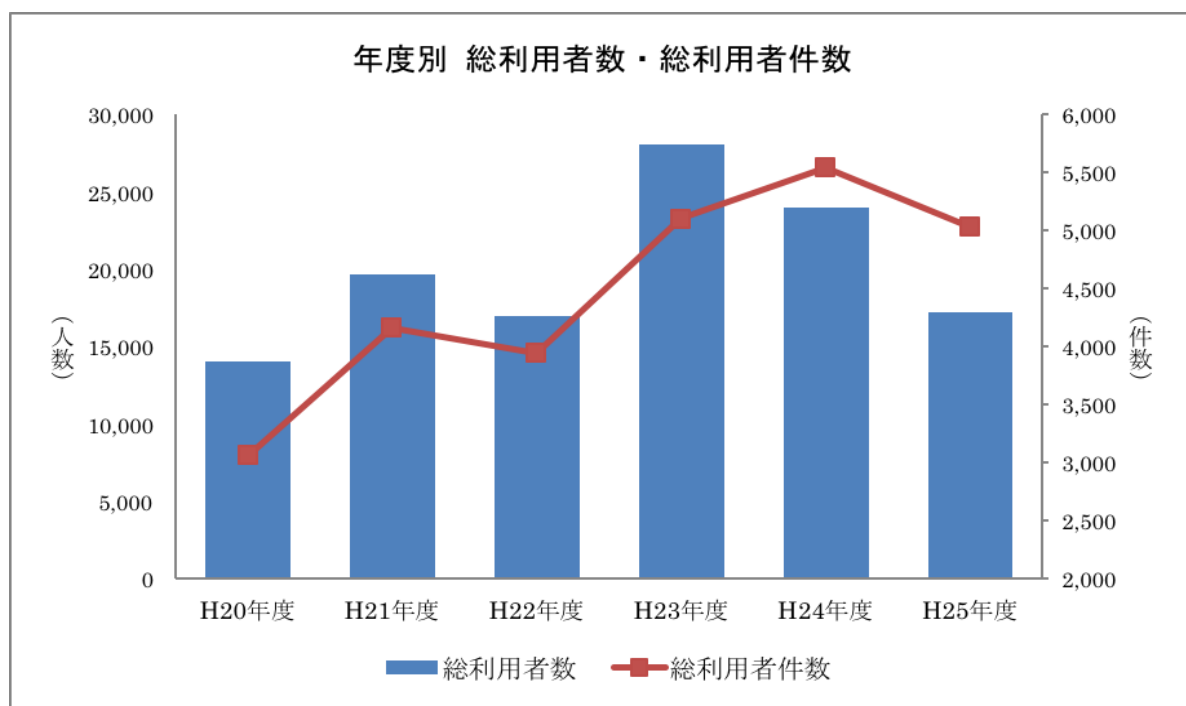
※平成24年度から、情報揭示の利用件数は新たに「団体パンフレット」を加える。

※改修工事のため9月中旬より11月下旬まで使用停止

3) 利用状況集計

平成 25 年度の総利用者数は 17,236 人、総利用件数は 5,032 件。月平均でみると、利用者数は 1,436 人、利用件数は 419 件であった。過去 5 年間（平成 20～24 年度）を年平均でみると、総利用者数は 20,512 人、総利用件数は 4,363 件であり、月平均の利用者数は 1,756 人、利用件数は 374 件である。

過去 5 年間の平均利用数と比較し、平成 25 年度の利用が下回ったのは、当館改修工事の影響により、会議室・和室の一部が半年以上使用できない状況が続いたため、利用者の活動場所が当館から他施設に分散されたことが主な要因である。



■年度別総利用者数・件数（単位：人・件）

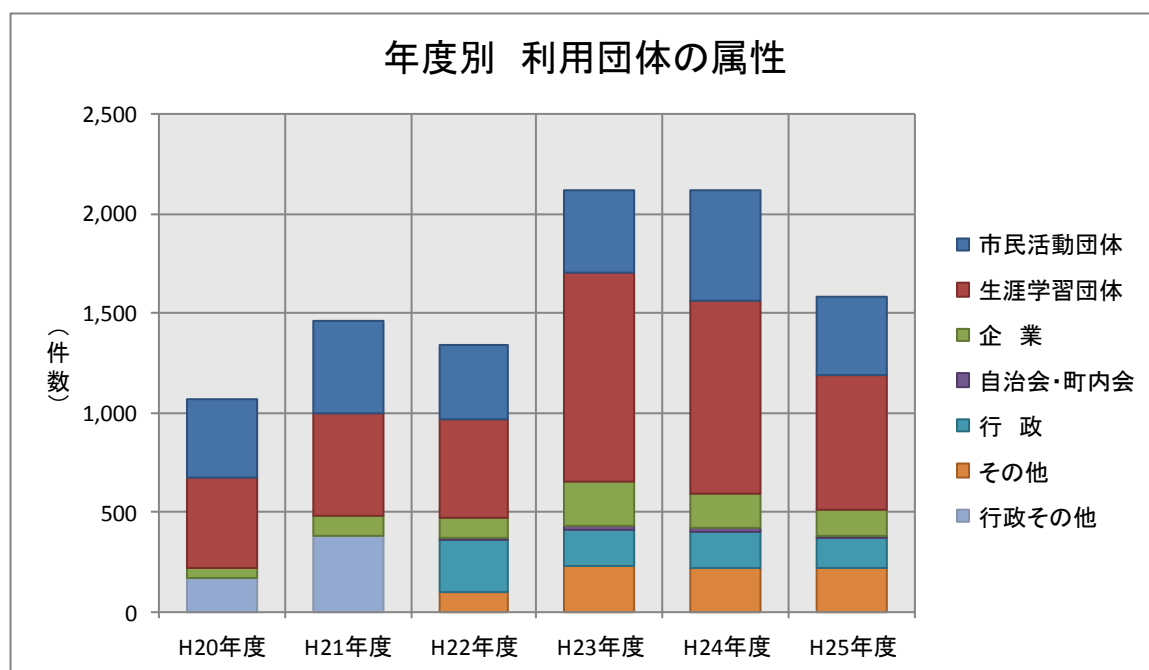
	総利用者数(人)						総利用件数(件)					
	H20年	H21年	H22年	H23年	H24年	H25年	H20年	H21年	H22年	H23年	H24年	H25年
4月	–	1,374	1,479	362	2,094	1,897	–	292	348	157	519	480
5月	–	1,314	1,336	1,520	2,136	1,863	–	232	355	302	510	451
6月	1,146	1,510	1,419	2,979	2,171	2,149	307	333	314	495	545	520
7月	1,255	1,776	1,347	2,626	2,070	1,799	284	390	373	470	449	422
8月	1,071	1,491	1,309	2,520	1,374	1,765	338	428	323	405	380	435
9月	1,674	1,746	1,770	2,715	2,203	1,845	358	402	394	466	492	458
10月	1,456	2,015	1,934	2,373	1,965	1,594	404	427	407	539	528	516
11月	1,581	1,837	1,900	2,912	2,194	1,133	269	314	374	454	448	343
12月	1,020	1,328	1,272	1,954	1,903	1,319	220	249	287	372	355	328
1月	1,247	1,388	993	2,167	1,225	558	281	291	284	402	385	331
2月	1,784	1,766	1,507	3,034	2,046	647	293	422	343	463	432	411
3月	1,767	2,097	685	2,853	2,570	667	311	382	142	575	500	337
合計	14,001	19,642	16,951	28,015	23,951	17,236	3,065	4,162	3,944	5,100	5,543	5,032
月平均	1,400	1,637	1,413	2,335	1,996	1,436	307	347	329	425	462	419

※赤字は最高値 青字は最低値

4) 利用団体の属性

市民活動団体 : 394 件 生涯学習団体 : 676 件 企 業 : 130 件
 町内会・自治会 : 11 件 行 政 : 148 件 その他(個人など) : 223 件

会議室・和室、交流サロン、情報サロン、事務用ブース利用者の利用票提出に基づく利用団体の属性をみると、全体の件数が低下している。中でも低下が著しいのは、市民活動団体(△162 件)、生涯学習団体(△296 件)で、当館の会議室・和室で活動していた団体が主である。これは当館改修工事の影響により、会議室・和室の一部が半年以上使用できない状況が続いたため、利用者の活動場所が当館から他施設に分散されたことが主な要因である。



■年度別利用団体の属性 (単位: 件)

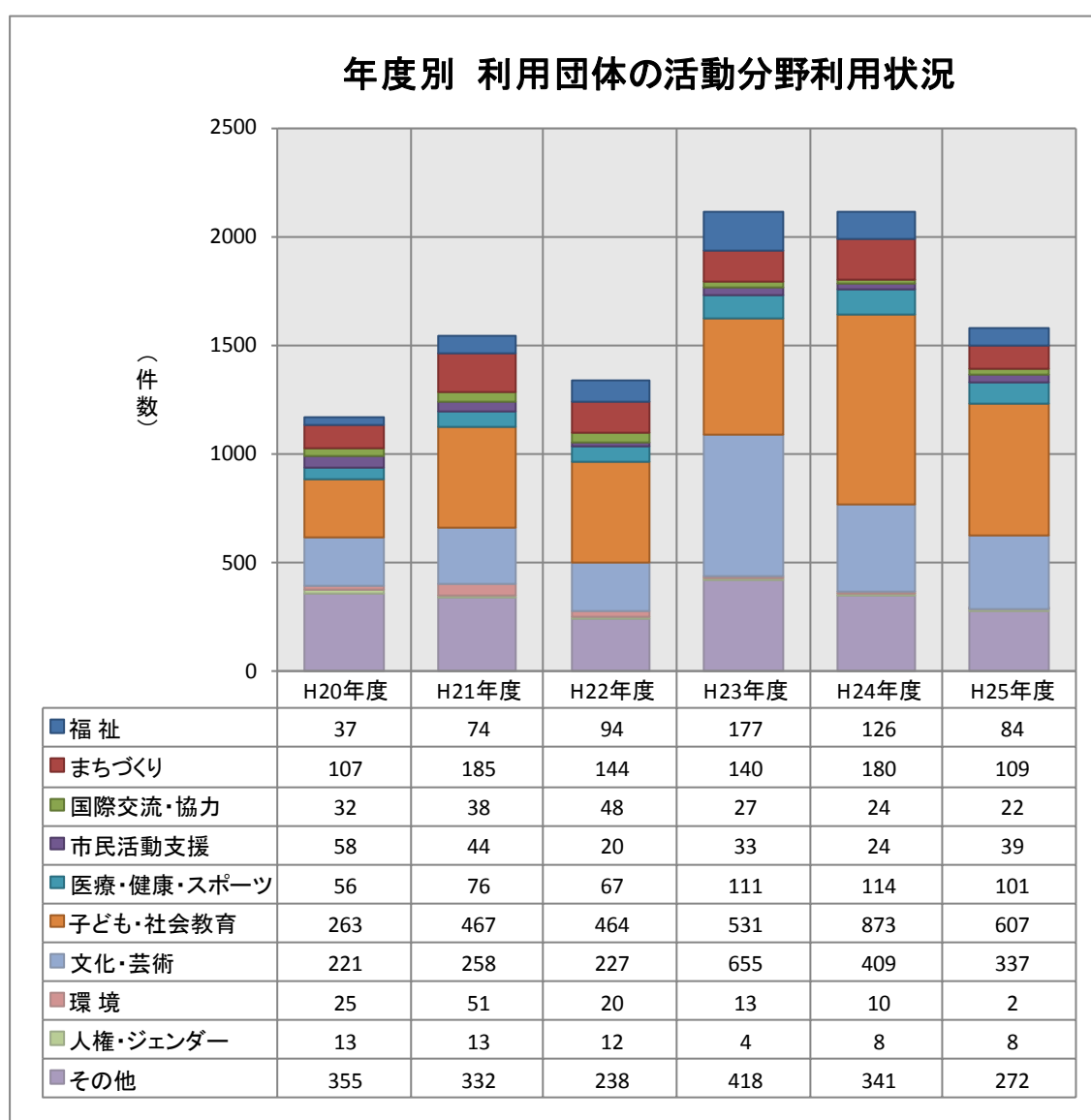
	市民活動団体	生涯学習団体	企 業	自治会・町内会	行 政	その他	行政その他	合 計
H20 年度	394	457	42	—	—	—	172	1,065
H21 年度	459	515	102	—	—	—	382	1,458
H22 年度	376	490	101	18	258	99	—	1,342
H23 年度	417	1,054	219	27	182	226	—	2,125
H24 年度	556	972	173	19	179	222	—	2,121
H25 年度	394	676	130	11	148	223	—	1,582

※平成 22 年度より「行政その他」の分類を、「自治会・町内会」「行政」「その他」と細かく分類している。

5) 利用団体の活動分野

会議室・和室、交流サロン、情報サロン、事務用ブース利用者の利用票提出に基づく利用団体の活動分野をみると、平成24年度と比較して「市民活動支援」の分野が増えているのは、市民活動団体がNPO対象の講座を開催したことや、当センター主催事業（講座・個別相談会・イベントなど）を実施した本数が増えたことが主な要因となっている。

講座を主催する市民活動団体から、多賀城、塩釜、仙台市宮城野区などの団体に向けて参加を呼びかける際、対象者の参加しやすい場所に当センターが設置されていることが講座を開催する主な理由となっている。今後も「市民活動支援」に関わらず、様々な分野の活動拠点として活用されることが期待できる。



(2) サービスごとの利用状況

1) 団体情報ファイル数 (単位: 団体)

	二市 三町	県内	県外	合計	キーワード
市民活動支援	1	26	127	154	市民活動支援団体、助成活動
福祉	12	121	39	172	障がい者支援、高齢者支援、依存症、配食サービス、移送サービス、地域福祉
スポーツ・健康・医療	15	54	68	137	スポーツ振興、健康、医療、難病支援、カウンセリング、自殺予防
人権・ジェンダー	1	32	47	80	平和、ホームレス支援、貧困支援、労働問題、男女共同参画、DV、マイノリティ
子ども・社会教育	31	85	96	212	子育て、青少年健全育成、障がい児、不登校、ひきこもり、児童虐待、生涯教育、母子・父子家庭支援
環境	11	83	56	150	自然保護、環境保全、リサイクル、農業・林業・漁業・食育、動物・ペット、エネルギー
まちづくり	43	132	110	285	まちづくり、地域づくり、地域おこし、災害救援、地域安全・防災
国際交流・協力	9	32	44	85	国際交流、国際協力、在日外国人支援、フェアトレード
文化・芸術	38	83	43	164	文化振興、文学、音楽、劇団、アート、歴史、伝統文化、ミニコミ出版
シニア	1	16	2	19	セカンドライフ、団塊世代
その他	0	27	30	57	オンブズマン(行政監視)、行政提案、消費者保護、科学技術、職能開発、コミュニティビジネス、その他
自治会・町内会	8	0	0	8	自治会・町内会、老人クラブ、子ども会
合計	170	691	662	1523	

分野別団体情報ファイル経年変化 (単位: 団体)

	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
市民活動支援	47	116	129	143	151	154
福祉	52	110	135	150	161	172
スポーツ・健康・医療	34	72	88	103	122	137
人権・ジェンダー	20	43	55	62	75	80
子ども・社会教育	57	109	128	155	197	212
環境	32	69	84	104	131	150
まちづくり	47	112	156	202	259	285
国際交流・協力	19	53	60	65	77	85
文化・芸術	22	61	81	115	152	164
シニア	8	13	16	17	17	19
その他	19	28	35	42	50	57
自治会・町内会			6	6	6	8

二市三町分野別団体情報ファイル経年変化（単位：団体）

	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
市民活動支援	1	1	1	1	1	1
福祉	4	8	11	11	11	12
スポーツ・健康・医療	3	8	9	11	14	15
人権・ジェンダー	0	0	1	1	1	1
子ども・社会教育	6	12	13	20	28	31
環境	6	8	8	9	11	11
まちづくり	8	17	20	30	41	43
国際交流・協力	5	7	8	8	9	9
文化・芸術	1	6	11	22	35	38
シニア	0	0	1	1	1	1
その他	0	0	0	0	0	0
自治会・町内会			6	6	6	8

エリア別団体情報ファイル経年変化（前年度比）単位：団体

	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
二市三町	34	67	89	120	158	(8% ↑) 170
県内	177	411	475	567	644	(7% ↑) 691
県外	127	308	409	477	596	(11% ↑) 662
合計	338	786	973	1,164	1,398	(9% ↑) 1,523

団体情報ファイル

団体情報ファイルには、団体ごとに団体紹介シート（※）、パンフレット、チラシ、定款（会則）、予算書、決算書、事業計画書、事業報告書、新聞記事などをファイリングしている。

このファイルは、既存の団体の運営・事業の参考となる情報源であり、新規団体立ち上げの先行事例としても紹介できるものである。また、受益者がサービスを受ける場合、ボランティアとして活動に参加する場合にも活用することができる。

ファイル数は 1,523 団体に増加した。東日本大震災の発生に起因する団体数の増加は落ち着き、前年度以前から活動していた団体の活動内容や成果報告に関する資料が増えている。

二市三町の団体情報ファイルは、前年度比で 8% 増加し 170 団体となった。「二市三町分野別団体情報ファイル経年変化」を見ると、震災復興関連の団体の立ち上げが落ち着いてきていること、改修工事により利用者が少なかったことから大きく増加していない。

来年度以降は、文化複合施設の設置、多賀城駅前の開発、災害公営住宅の入居開始等で市内の状況が変化していくため、併せて団体の増加や活動の変化が予想される。そうした変化を察知しながら、市内団体の情報や課題解決・地域づくりのモデルとなる情報の収集を行う。

※団体紹介シート

市民活動団体の情報発信を支援する T S C 独自のツール。

団体の連絡先、設立経緯、目的、活動内容、アピールポイントなどを記入するもの。

提出された団体紹介シートは団体情報ファイルにファイリングされるとともに、T S C ホームページ上で公開している。

平成 25 年度末現在 85 団体の団体紹介シートが集まっている。

2) 展示スペース利用状況

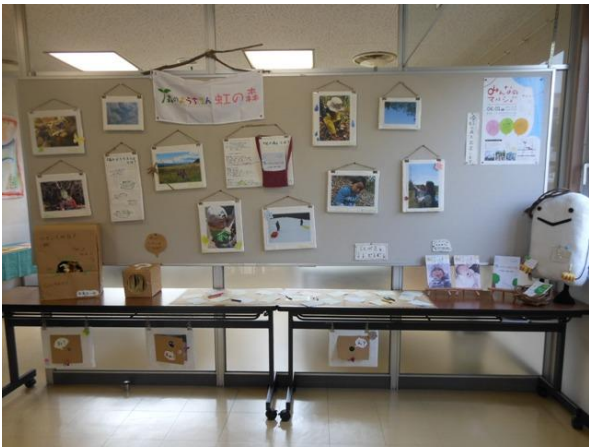
展示スペースについて

NPOを中心とした情報発信支援を目的とした無料の展示スペース。場所は、たがさば玄関入口正面のため、すべての来館者が目にするスペースとなる。活動の様子がわかる写真や作品の展示、活動報告、イベントの事前告知など使い方を工夫することで効果的に情報発信することができる。利用期間は、約2週間。1団体につき1年に2回まで利用できる。

平成25年度展示スペース利用団体

	団体名	展示期間	展示行事名	展示内容・伝えたいこと
1	ココロのびのび★ブラネット	平成25年 4月16日～5月15日	のびのび感謝祭	平成25年3月に実施した前身団体「アフタースクールのびのびクラブ」感謝祭での作成物の展示。 4月に設立した当団体の告知。
2	一般社団法人 くりこま高原自然学校 森のようちえん虹の森	平成25年 5月16日～5月31日	森のようちえん 虹の森 活動紹介	活動に関する写真やチラシ、自然のもの(植物)に実際に触れられる展示物。 多賀城・利府での活動の告知。

■展示の様子

1. のびのび感謝祭	2. 森のようちえん 虹の森 活動紹介
	

平成25年度の展示スペース利用団体は2団体だった。6月以降は改修工事を行っていたため利用出来なかった。

両団体とも今年度になって新たに活動を広げようとしている団体であり、来館者に対して活動に触れてもらうきっかけとして展示スペースを利用した。また、見た人がその場でメッセージを記入し展示物に貼り付けるコーナーもあり、一方的に発信するだけでなく双方向のやりとりもあった。

団体の利用以外でも、前年度に当センターで実施した「だれでも作れる！フリーペーパー講座」の受講者が作成したフリーペーパーを展示し、講座の様子や成果を広く発信することが出来た。

改修工事に伴い、新たに各階に掲示スペースが設けられたため、今後その使い方を検討する。

3. 事業実施状況



19 (←tag発行回数を除く事業本数)

※1⇒市民活動団体に限らず、地縁組織、地域づくりに意欲的な企業(経営者)も広く取材対象とし、セクターを超えた幅広い地域づくり情報誌として発行する。
※2⇒実施時期は復興の進捗、他事業の進捗による評価が明確になる年度後半とし、参加者を専門家層に絞ることにより、当センターの自治戦略を発信する機会として実施する。
※3⇒開催時期は多賀城市と検討・調整を要する。

- 復興支援に関するネットワーク支援・形成は、状況の進捗に合わせてその実施における方向性を改めて多賀城市とともに検討する。
- 復興支援員の業務との関わりは、通常業務の中で日常的に情報交換・交流を進めることとし、随時必要な支援を提供していくものとする。

事業名	(1) 参加・育成事業 1) サロン系事業	
目的	①これまで市民活動に関わる機会がなかった市民に向けて、興味関心や得意分野という視点から活動に関わるきっかけを提供する。 ②市民活動への多種多様な関わり方を示し、多くの市民が市民活動に関わるよう促す。	
実施概況 ・開催日 ・講師 ・プログラム内容 ・参加人数	＜実施状況＞	
	第 1 回	誰でもかんたんかわいい 自分だけのタンブラーづくり 日 時：平成 25 年 8 月 31 日(土)10:00～12:00 場 所：多賀城市市民活動サポートセンター 3 階 大会議室 ゲスト：公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク 岸 恵理さん テーマ：エコ 目 的：タンブラーづくりとゲストからの話を通して、環境問題への気付きを促し、自分が普段心掛けられることを考える機会とする。また、団体の活動目的やイベントを紹介することで、「イベントに参加する」「ボランティアとして関わる」「寄付をする」など、次の行動を起こすきっかけを提供する。 内 容：①タンブラーを持つメリットについて ②タンブラーづくり ③タンブラーでお茶を飲みながら、団体紹介、交流会 定 員：20 名 参加人数：6 名 参加費：500 円
	第 2 回	食べる！多賀城グルメ 日 時：平成 25 年 10 月 26 日(土)11:30～13:30 場 所：多賀城市市民活動サポートセンター 3 階 大会議室 ゲスト：T・A・P多賀城 加藤則博さん NPOゲートシティ多賀城 松村敬子さん レインボー多賀城 佐藤仁幸さん テーマ：食 目 的：NPO・福祉施設が販売、製造する食品を通して、団体の理解と支援につなげることを目的とする。 内 容：①ゲストより、食べ物&団体紹介 ②試食

		③アイデア募集・交流タイム 定 員：20 名 参加人数：9 名 参加費：500 円
	第 3 回	たがさぼのクリスマス雑貨市 日 時：平成 25 年 12 月 7 日（土）10：00～15：00 場 所：多賀城市市民活動サポートセンター 大会議室 テーマ：雑貨 目 的：雑貨を通して、フェアトレード、福祉施設、復興支援の取り組みや想いに関心を持ってもらう。また、販売の目的を知ってもらうことで、今後社会貢献につながる雑貨を意識的に購入するなど、団体を応援するきっかけとなる機会を提供する。 ゲスト：○フェアトレード団体 ・NPO 法人アマニ・ヤ・アフリカ（販売・ワークショップ）／仙台 ・本格遠赤焙煎珈琲まめ福／多賀城 ・国際協力 NGO・シャプラニール★／東京 ・民芸雑貨アフリーク・ソレイユ★／仙台 ○福祉施設 ・NPO 法人麦の会／仙台 ・NPO 法人多夢多夢舎中山工房★／仙台 ・山元町共同作業所 工房地球村★／山元 ○復興支援関連 ・一般社団法人 WATALIS★／亶理 ・MAST 帆布 KESEN-NUMA★／気仙沼 ・一般社団法人 Nr.12（ともしびプロジェクト）★／気仙沼 ・やましたさんとみんなの工作教室（ワークショップ）／多賀城 「★」の団体は委託販売のみ 内 容：①雑貨の販売・ワークショップの開催 ②パワーポイントによる団体紹介 定 員：なし 参加人数：のべ 200 人 参加費：無料 出入自由
	第 4 回	猫と探るまちのはなし 日 時：平成 26 年 2 月 22 日（土）13:00～15:00 場 所：多賀城市文化センター 3 階 第 5 会議室

	ゲスト：わんにゃん仲良しクラブ 米倉由梨さん 大泉由紀子さん テーマ：猫 目 的：猫をテーマとした地域課題について意見交換することで、課題に対する考え方の多様さを知る。また、地域課題に対して取り組む団体がいることを知る。 内 容：①地域の猫に関する課題の紹介（寸劇） ②団体紹介、明日から取り組めることの紹介 定 員：10 名 参加人数：8 名 参加費：500 円																																						
	＜参加者分析（アンケート結果）＞全 4 回・135 件 ①年 代 <table><tr><td>～10 代</td><td>20 代</td><td>30 代</td><td>40 代</td><td>50 代</td><td>60 代</td><td>70 代</td><td>未記入</td></tr><tr><td>22 名</td><td>12 名</td><td>23 名</td><td>25 名</td><td>14 名</td><td>19 名</td><td>15 名</td><td>5 名</td></tr></table> ■対象としていた現役層（20～50 代）の参加者は 74 名で、全体の 62%となった。ターゲットとしていた現役層の関心の高い内容をテーマに取り上げたことが、実際の参加につながった。 ②性 別 <table><tr><td>男性</td><td>女性</td><td>未記入</td></tr><tr><td>32 名</td><td>100 名</td><td>3 名</td></tr></table> ■女性の参加が全体の 75%を占める結果となった。雑貨市では女性をターゲットとし、実際に女性の参加につながった。 ③住 所 <table><tr><td>多賀城</td><td>塩釜</td><td>利府</td><td>七ヶ浜</td><td>松島</td><td>仙台</td><td>県外</td><td>未記入</td></tr><tr><td>90 名</td><td>7 名</td><td>5 名</td><td>4 名</td><td>3 名</td><td>22 名</td><td>1 名</td><td>3 名</td></tr></table> ■多賀城市民の参加が全体の 69%を占めた。多賀城市に重点的に広報をしたことで、参加につながったことが分かる。	～10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	未記入	22 名	12 名	23 名	25 名	14 名	19 名	15 名	5 名	男性	女性	未記入	32 名	100 名	3 名	多賀城	塩釜	利府	七ヶ浜	松島	仙台	県外	未記入	90 名	7 名	5 名	4 名	3 名	22 名	1 名	3 名
～10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	未記入																																
22 名	12 名	23 名	25 名	14 名	19 名	15 名	5 名																																
男性	女性	未記入																																					
32 名	100 名	3 名																																					
多賀城	塩釜	利府	七ヶ浜	松島	仙台	県外	未記入																																
90 名	7 名	5 名	4 名	3 名	22 名	1 名	3 名																																
成果	●興味関心の高いテーマが、新規層の開拓につながった 市民活動に関わる機会の少ない方を対象とした本事業では、対象者の「好きなこと」「興味関心のあること」をテーマに設け、講座／イベントを企画した。参加者からは「タンブラー作りに興味があった」「雑貨に興味があった」などという声があった。興味関心の高いテーマが参加動機につながり、T S C の新規層の開拓できた。																																						

	●市民活動への多種多様な関わり方を示すことで行動につながった 前年度までの参加・啓発・育成事業では、参加者に市民活動への参加を促していたが、市民活動に参加するまでのハードルが高く、実際の活動につながることは少なかった。そこで市民活動への関わり方を増やすために、本事業では参加者に「活動を知る」「調べる」「伝える」「作る」「食べる」「買う」など、多種多様な関わり方を示すことができ、実際にボランティアとして活動に参加するケースを生むことができた。 ●広報媒体、広報先の開拓に力を入れたことで、新規層の参加につながった チラシのカラー印刷、「たがさぼのクリスマス雑貨市」では、従来のチラシではなくポストカードを作成し、どんな方でも気軽に手に取りやすい広報ツールの作成を行った。それにより、新規層へのアプローチに成功し、参加につなげることができた。また広報先は、市民市など多賀城市内のイベントでの配布、コンビニエンスストア、マンションへの設置により、新規参加者の獲得につながった。
次年度に向けた課題	・新たな層の参加につながったにも関わらず、T S Cが市民活動の相談窓口であることの周知が不足していた。次年度は、市民活動に関心を持った方が継続的に関われるよう、T S Cの役割を伝える等、情報提供を行う。

※添付資料 ■チラシ ■当日配布資料



自分だけのタンブラーづくり



食べる！多賀城グルメ



たがさぼのクリスマス雑貨市



猫と探るまちのはなし

事業名	(1) 参加・育成事業 2) はじめる広場トークタイム								
目的	①市民へ市民活動やボランティアを始めるきっかけを提供する。 ②市民がNPOの基礎知識を身につけ、活動への理解を深める。 ③ゲストと参加者、参加者同士が出会う場を提供し交流を促す。								
実施概況 ・開催日 ・講師 ・プログラム内容 ・参加人数	<実施状況> <table> <tr> <td>第 1 回</td><td> 日 時：平成 25 年 5 月 11 日（土） 10:30～12:00 場 所：市民活動サポートセンター 301 会議室 ゲスト：みんなのマルシェ実行委員会 代表 丑田明希さん テーマ：まちづくり 参加人数：14 名 </td></tr> <tr> <td>第 2 回</td><td> 日 時：平成 25 年 9 月 7 日（土） 14:00～15:30 場 所：市民活動サポートセンター 302 会議室 ゲスト：ココロのびのび★プラネット 土生浩子さん 阿部知子さん テーマ：困りごとのある子どものケア 参加人数：3 名 </td></tr> <tr> <td>第 3 回</td><td> 日 時：平成 25 年 11 月 8 日（金） 19:00～20:30 場 所：市民活動サポートセンター 302 会議室 ゲスト：わくわく文庫 和久由紀恵さん テーマ：絵本 参加人数：15 名 </td></tr> <tr> <td>第 4 回</td><td> 日 時：平成 25 年 12 月 13 日（金） 19:00～20:30 場 所：市民活動サポートセンター 301 会議室 ゲスト：多賀城災害ボランティアネットワーク 代表 後藤晃治さん テーマ：災害ボランティア 参加人数：7 名 </td></tr> </table>	第 1 回	日 時：平成 25 年 5 月 11 日（土） 10:30～12:00 場 所：市民活動サポートセンター 301 会議室 ゲスト：みんなのマルシェ実行委員会 代表 丑田明希さん テーマ：まちづくり 参加人数：14 名	第 2 回	日 時：平成 25 年 9 月 7 日（土） 14:00～15:30 場 所：市民活動サポートセンター 302 会議室 ゲスト：ココロのびのび★プラネット 土生浩子さん 阿部知子さん テーマ：困りごとのある子どものケア 参加人数：3 名	第 3 回	日 時：平成 25 年 11 月 8 日（金） 19:00～20:30 場 所：市民活動サポートセンター 302 会議室 ゲスト：わくわく文庫 和久由紀恵さん テーマ：絵本 参加人数：15 名	第 4 回	日 時：平成 25 年 12 月 13 日（金） 19:00～20:30 場 所：市民活動サポートセンター 301 会議室 ゲスト：多賀城災害ボランティアネットワーク 代表 後藤晃治さん テーマ：災害ボランティア 参加人数：7 名
第 1 回	日 時：平成 25 年 5 月 11 日（土） 10:30～12:00 場 所：市民活動サポートセンター 301 会議室 ゲスト：みんなのマルシェ実行委員会 代表 丑田明希さん テーマ：まちづくり 参加人数：14 名								
第 2 回	日 時：平成 25 年 9 月 7 日（土） 14:00～15:30 場 所：市民活動サポートセンター 302 会議室 ゲスト：ココロのびのび★プラネット 土生浩子さん 阿部知子さん テーマ：困りごとのある子どものケア 参加人数：3 名								
第 3 回	日 時：平成 25 年 11 月 8 日（金） 19:00～20:30 場 所：市民活動サポートセンター 302 会議室 ゲスト：わくわく文庫 和久由紀恵さん テーマ：絵本 参加人数：15 名								
第 4 回	日 時：平成 25 年 12 月 13 日（金） 19:00～20:30 場 所：市民活動サポートセンター 301 会議室 ゲスト：多賀城災害ボランティアネットワーク 代表 後藤晃治さん テーマ：災害ボランティア 参加人数：7 名								

第5回

日時：平成 26 年 2 月 21 日（金） 19:00～20:30

場所：市民活動サポートセンター 201 会議室

ゲスト：一般社団法人 復興応援団

下澤大祐氏さん 奥村典弘さん 小杉厚貴さん 吉田愛里さん

テーマ：学生ボランティア

参加人数：5 名

実施期間：平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月

実施回数：全 5 回

実施時間：一講座 90 分

参加費：500 円

<講座内容>

①市民活動の概要説明20 分

②ゲストとスタッフとの質疑応答による活動内容の紹介40 分

③参加者とゲストとの質疑・応答30 分

<受講者分析（アンケート結果）>全 5 回・44 件

①年 代

20 代	30 代	40 代	50 代～
18 名	13 名	5 名	8 名

■全参加者の内、現役層である 20 代～40 代の受講者は 36 名で、全体の 81.8%を占めた。

②性 別

男 性	女 性
16 名	28 名

③住 所

多賀城	塩釜	利府・七ヶ浜・松島	仙台
19 名	5 名	6 名	14 名

■参加者は多賀城市内の方が全体の 43.2%を占めた。

④講座理解度

理解度 5	理解度 4	理解度 3	未記入	平均理解度
29 名	10 名	2 名	3 名	4.66

	■講座理解度は全体の 65.9%は理解度 5 の評価で、平均理解度は 4.66 だった。
成果	●市民へ市民活動やボランティアを始めるきっかけを提供 市民活動やボランティアに興味を持つ参加者が受講後、ゲストの多賀城の団体が行っているボランティアに参加するなど、活動をはじめるきっかけを提供することができた。 ●市民のNPO基礎知識と活動の理解を深める NPOの基礎知識を身につけることと、市民活動への理解を深めることは必ずしも同時に達成できるものではなく、NPOの知識を伝えるミニ講座をゲストのトーク内容に関連付けることが困難であった。そのため、活動への理解を深める内容に重点を絞りミニ講座を行った。これにより市民活動やボランティアに関わる・参加する事に対して、ハードルが高いという印象を和らげることができた。 ●ゲストと参加者、参加者同士が出会う場の提供 第1回では、みんなのマルシェ当日に参加者が所属する団体のブースを設けるなど、ゲストと既活動者の新たなつながりや連携を生むことができた。 ●その他 ・ゲストに多賀城市内で活動する団体の方を選んだことで、身近なところで活動する方がいるということを多賀城市内に広める効果があった。 ・参加者の感想として、自身が活動へ参加することに対して前向きな意見が見られた。
次年度に向けた課題	・イベント開催や絵本といったわかりやすく興味を惹きやすいテーマの場合は参加者が多く集まりやすいが、課題解決型の活動の場合は集客が難しく、テーマによって参加者数に開きがみられた。ゲスト団体の特性を考えた上でのターゲット設定や告知の手段について更なる工夫が必要である。 ・他事業と連携し参加者がステップアップできる場を設定する。 ・活動者の体験談をもとに市民活動への理解を深める内容と、NPOの基礎知識を学ぶ講座は切り離し、それぞれ単独で実施するのが効果的である。 ・意欲ある参加者に対して活動をはじめるきっかけを提供できるように、講座参加後のフォローを徹底する。そのためにTSCから積極的に連絡し、情報提供したり活動への疑問や不安などの相談に応じる。市民活動やボランティアへスムーズに参加できるよう、参加者の思いを実現するための準備をする。

※添付資料 ■チラシ ■当日配布資料



みんなのマルシェ実行委員会の丑田明希さん



普段の活動の様子がわかる会場づくり



活動をはじめたきっかけや思いを語るゲスト



講座後にボランティアスタッフになった参加者も



多賀城災害ボランティアネットワーク代表の
後藤晃治さん



学生をゲストに迎えてのトーク

事業名	(1) 参加育成事業 3) 「tag」発行事業
目的	①今まで市民活動に関わってこなかった市民に対して、より市民活動が身近に感じる情報を発信することによって参加へのきっかけとする。 ②たがさぼの持つ情報を紙媒体によって市民へ発信することで、たがさぼへのアクセス(特にウェブコンテンツ)につなげる。 ③市民活動の様子を発信していくことにより、多賀城市内における市民活動の認知向上と、認知が向上することで個人・団体が活動しやすくなるための環境整備を図る。
実施概況 ・ 対象 ・ 内容 ・ 形態 ・ 配布先	<対象> ・ 潜在的活動者(主にこれまで活動に関わってこなかった 20～50 代の現役層) ・ 市民活動関係者 ・ 受益者(被災者及び特別な支援・緊急的な支援を必要とする市民) <内容> ・ 多賀城の人・出来事・物などの地域資源を紹介。 ・ 地域づくりや課題解決に取り組む団体を紹介。 ・ 市民活動に携わる人の活動をはじめたきっかけや想いを紹介。 ・ NPOによるサービス、相談窓口等、受益者に役立つ情報を紹介。 ・ 市民活動にたがさぼスタッフが参加し、その体験を紹介。 ・ 多賀城を中心とした地域のNPOによるイベント・講座を紹介。 ・ たがさぼのブログ記事を簡単に紹介。 ・ たがさぼのサービスやイベント・講座等を紹介。 ・ たがさぼの貸出図書から、読みやすく新たな視点を与えてくれる書籍を紹介。 ・ 目にする機会の多い市民活動に関わる言葉を解説。 <形態> ・ 様式：A4×1 枚 全2 ページ 両面カラー ・ 発行頻度：毎月(2013 年 4 月～2014 年 3 月) ・ 発行部数：2,000 部 ・ 誌面デザインは 193tree、印刷はグラフィック印刷に外注。 <配布先> ・ 多賀城市内及び周辺市町公共施設 ・ 県内外NPO支援センター ・ 多賀城市内仮設住宅 ・ 多賀城市内民間施設(病院等) ・ 多賀城市内民間店舗(スーパー、コンビニ、飲食店等) ・ マスコミ ・ 市内外イベント

成果	○つながるきっかけ ・ tag を見た東北学院大学の学生が、復興支援団体へ継続的に参加するようになった。 ・ tag を通して、絵本をテーマに活動している市民同士がつながった。 ○市民活動の認知向上 ・ 市内コンビニ、飲食店で昨年度に加えて新たに 14 ヲ所に配架し、設置場所を開拓した。 ・ コンビニ、スーパー、飲食店等や市内外イベントで tag を配布し、今まで市民活動に関わってこなかった市民に対して、多賀城における市民活動の認知を向上させることができた。 ・ 印刷の外注・両面カラーにより市民が手に取りやすい誌面となり、多賀城における市民活動や tag 自体の認知を向上させることができた。 ・ メディアから tag 掲載団体について 2 件の問い合わせがあり、内 1 件は実際に取材され、多賀城における市民活動の認知を向上させることができた。 ・ 企業から 3 件の求人やイベント情報の掲載依頼があり、市民活動関係者だけでなく企業に対しても情報が渡っていることが分かった。 ○広報ツールとしての役割 ・ 掲載団体の広報ツールとして tag が活用された。 ・ 市民や行政関係者が市外へ多賀城を広報する際に tag が活用された。 ○たがさぼに対しての成果 ・ たがさぼのブログ記事を紹介したり、内容を連動させたことにより、アクセス数が月平均 2,079 件(前年度 1,671 件)、平成 26 年 3 月 2,262 件(平成 25 年 3 月は 1,907 件)と前年度に比べて増加した。 ・ 取材を通して、これまで T S C と関わりがなかった地域資源とつながることができた。
次年度に向けた課題	・ 一般的に関心を持ちやすい内容が多く、地域課題を啓発する内容が少なかった。次年度は、関心を持ちやすい内容にすると同時に地域課題の啓発も視野に入れた情報誌とする。 ・ 次年度以降は文化複合施設の設置、駅前の再開発など多賀城市の状況も大きく変化していく。こうした変化を見越した内容とする必要がある。

※添付資料 ■tag vol.4~15

「tag」 年間発行部数と配布先別部数／各号の掲載内容

号数	発行日	館内	公共 施設	支援セ ンター	マス コミ	学校	行政	民間 店舗	その他	配布部 数合計	発行 部数
4号	4月15日	200	302	168	41	48	140	230	80	1,209	2,000
5号	5月15日	200	302	168	41	48	140	230	80	1,209	2,000
6号	6月15日	200	302	168	41	48	140	230	80	1,209	2,000
7号	7月15日	200	302	168	41	48	140	230	80	1,209	2,000
8号	8月15日	200	302	168	41	48	140	230	80	1,209	2,000
9号	9月15日	200	302	168	41	75	140	230	80	1,236	2,000
10号	10月15日	200	302	168	41	75	140	230	80	1,236	2,000
11号	11月15日	200	302	168	41	75	140	230	80	1,236	2,000
12号	12月15日	200	302	168	60	75	140	230	80	1,255	2,000
13号	1月15日	200	302	168	41	75	140	230	80	1,236	2,000
14号	2月15日	200	302	168	41	75	130	230	80	1,226	2,000
15号	3月15日	200	302	158	41	75	130	230	80	1,216	2,000
合計		2,400	3,624	2,006	511	765	1,660	2,760	960	14,686	24,000

号数	発行日	内容(目次)
Vol.4	平成25年4月15日	P1 「スイセンプロジェクト」 咲かせよう 多賀城へ届いた想い ヒント from“たがさぼPress” ・壁新聞ははじめました。 ・自治会・町内会活動お役立ちサイト ・イベント・活動をメディアに取り上げてもらおう！ たがさぼからのお知らせ ハジメルヒロバ トークタイム P2 市民活動体験記 つながりつくって自律へ一歩 イベントに行ってみよう 多賀城月の市 NPO復興お役立ち情報 チャイルドライン、POSSE労働・生活相談
Vol.5	5月15日	P1 大人もわくわく大好きな絵本 ヒント from“たがさぼPress” ・名刺の裏が白紙なら・・・ ・活動の中で培われたノウハウ集 ・新しい活動の仲間を迎えるために たがさぼからのお知らせ たがさぼ文庫のご案内 P2 市民活動はじまりのはじまり 私にも何かできる！？「好き」と「得意」が多賀城を元気にする イベントに行ってみよう みんなのマルシェ ちょっと気になるあのコトバ ワークショップって何？
Vol.6	6月15日	P1 ハジケル若さで多賀城応援 ヒント from“たがさぼPress” ・固い雰囲気会議を和やかにするコツ ・ボランティアをしたいと思ったら

		・コロコロ遊べる募金箱 たがさぼからのお知らせ 地域づくりはじめの「IPPO」 P2 市民活動はじまりのはじまり みんなでつくるココロのびのびな場所 イベントに行ってみよう ココのびカフェ
Vol.7	7 月 15 日	P1 子どもたちのリーダー その名も・・・「エステバン」 ヒント from“たがさぼPress” ・助っ人募集のアイデア ・地域での男性の居場所 ・ピクニックのすすめ たがさぼからのお知らせ はじめる広場トークタイム P2 市民活動はじまりのはじまり 夏だ！祭りだ！ご近所わっしょい！ イベントに行ってみよう 城南仮設住宅夏祭り
Vol.8	8 月 15 日	P1 ～輝く子どもたち～ブライト☆キッズ ヒント from“たがさぼPress” ・お祭り・イベントグルメの新しい楽しみ方 ・テレビや新聞だけがメディアじゃない ・日程調整の苦勞にさようなら たがさぼからのお知らせ 誰でも かんたん かわいい 自分だけのタンブラーづくり P2 みんなで考える多賀城のこと 活動を地域へバトンタッチ イベントに行ってみよう 多賀城月の市 にぎわい祭り NPO復興お役立ち情報 チャイルドライン、ママパパライン仙台
Vol.9	9 月 15 日	P1 バスケットで地域が元気もりもり！ ヒント from“たがさぼPress” ・夏祭り巡りをしました ・フリーメールを使って団体のメールアドレスを持とう！ ・『子ども』と『連携』がキーワード たがさぼからのお知らせ はじめる広場トークタイム P2 市民活動はじまりのはじまり 多賀城の魅力 万葉ロマン イベントに行ってみよう 多賀城月の市 秋のグルメ祭り、第 15 回史都多賀城万葉まつり
Vol.10	10 月 15 日	P1 「ちいさいおうち」に夢いっぱい ヒント from“たがさぼPress” ・黄色いレシートで物品を手に入れよう ・新しいデパートのカタチ ・活動に必要なデータをメンバーで共有する方法 たがさぼからのお知らせ 市民ライター養成講座 P2 みんなで考える多賀城のこと 史跡に眠るヒストリー イベントに行ってみよう 多賀城碑のなぞを探る！、第 32 回多賀城市民音楽祭
Vol.11	11 月 15 日	P1 食べる♪多賀城グルメ ヒント from“たがさぼPress” ・WEB サイト「マンション・ラボ」でマンションのコミュニティを考えよう ・まちづくり情報サイト「街元気」のご紹介 ・地区の情報をまるごと届ける

		たがさぼからのお知らせ クリスマス雑貨市 P2 みんなで考える多賀城のこと 光が包む新しい多賀城駅 イベントに行ってみよう 悠久の詩都の灯
Vol.12	12 月 15 日	P1 今年のクリスマス&初売りのお買い物は社会にやさしく！！ ヒント from“たがさぼPress” ・仙臺鍋まつりに生涯学習 100 年構想実践委員会が出店！ ・たがさぼブログ日曜版—近づく多賀城駅前イルミネーション ・参加者が増える！イベント告知文 3 つのポイント たがさぼからのお知らせ 写真で見つける昭和の多賀城講座 P2 市民活動はじまりのはじまり 地域への想いを歌に乗せて ブックレビュー common cafe ～人と人が出会う場のつくりかた～
Vol.13	平成 26 年 1 月 15 日	P1 発見！多賀城の「名人」たち ヒント from“たがさぼPress” ・減災シンポジウムに行ってきました ・すてきなロゴで、団体をPRしよう！ ・ブックレビュー／ボランティア・市民活動カット集 たがさぼからのお知らせ はじめる広場トークタイム P2 みんなで考える多賀城のこと 雪かき！汗かき！スノーライフのススメ イベントに行ってみよう 第 5 回多賀城セツ浜「わかるすかぁ？」検定
Vol.14	2 月 15 日	P1 知っていますか？「こさじ伝説」 ヒント from“たがさぼPress” ・楽しいエコ・パーティー「xchange」で服としあわせをシェアしよう ・多賀城をアーカイブする！ ・書き間違えた年賀はがきがだれかの役に立つ たがさぼからのお知らせ まちをおもしろくする手づくりイベントのはじめ方 P2 みんなで考える多賀城のこと ひとりひとりの「心がけ」で守る命 ブックレビュー 動物たちの 3.11 ～被災地動物支援ドキュメンタリー～
Vol.15	3 月 15 日	P1 写真で再発見！多賀城のまちと暮らし ヒント from“たがさぼPress” ・冬のお悩み「雪かき」を地域で解決！ ・スケジュール管理や情報共有もこれ 1 つで！無料サービス「サイボウズ Live」 ・若者による社会を変える動きを応援 たがさぼからのお知らせ たがさぼリニューアル！ P2 みんなで考える多賀城のこと 市民が震災を伝える ことば・モノにこめられた想いととも ブックレビュー 阪神大震災・被災した私たちの記録

事業名	(2) 自治活動支援事業 1) 小さなプロジェクトを起こそうプロジェクト
目的	地域・社会の課題解決のために活動する人材（特に 20～50 代）を発掘・育成すること、同じ志をもつ人材を結び付け新たな市民活動団体やプロジェクトの立ち上げに寄与することを目的とする。
実施概況 ・開催日 ・講師 ・プログラム内容 ・参加人数	講座のテーマ・内容は、参加者が取り組みやすいこと、主に現役層の興味関心をひくこと、講座後に参加者がより具体的なアクションを起こせるような仕掛けをつくることを重視して決定した。 (1) 市民ライター養成講座 ～あなたの文章で「まちの魅力」を発信しよう！～ ○第 1 回 日時：平成 25 年 11 月 26 日（火）19:00～21:00 会場：多賀城市市民活動サポートセンター 301 会議室 内容：インタビューの方法、取材から記事作成の流れなど ○第 2 回 日時：平成 25 年 12 月 20 日（金）19:00～21:00 会場：多賀城市市民活動サポートセンター 302 会議室 内容：文章の書き方など ※本来は 12 月 10 日（火）に開催予定であったが、暴風のため延期して実施した。 ○講 師：「仙台経済新聞」編集長 菊地正宏さん ○参加者：第 1 回 11 名、第 2 回 10 名 ●参加者が書いた記事を、講座後にフリーペーパーにまとめた。 (2) 写真で見つける昭和の多賀城講座 ○第 1 回 日時：平成 26 年 1 月 18 日（土）13:30～15:30 会場：多賀城市中央公民館 第 2 会議室 内容：写真の収集・保存と活用法の紹介など ○第 2 回 日時：平成 26 年 2 月 8 日（土）13:30～15:30 会場：多賀城市中央公民館 第 1 会議室 内容：昔の多賀城の写真の読み取りとフリートークなど ○講 師：NPO 法人 20 世紀アーカイブ仙台副理事長 佐藤正実さん ○参加者：第 1 回 7 名、第 2 回 6 名 ●この講座にあたって収集した写真で、写真の展示会を開催する。 ・日時：平成 26 年 4 月 1 日（火）～11 日（金）8:30～17:30 ・会場：多賀城市役所 1 階ロビー (3) まちをおもしろくする手づくりイベントのはじめ方 ○日 時：平成 26 年 3 月 15 日（土）13:00～17:00 ○会 場：多賀城市中央公民館 第 1 会議室 ○内 容：「まちフェス」について、イベント企画のアイデア出しと

企画書作りのワークショップ

○講 師：「まちフェス～伊達ルネッサンス～」事務局 阿部結悟さん

○参加者：8 名

<受講者分析（アンケート結果）>全 3 回・29 件

①年 代

20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代
7 名	10 名	3 名	2 名	2 名	5 名

■20 代～40 代の若年層が 3 分の 2 を占め、参加者を期待する層の参加が多かった。また、60 年代以上のシニア層の参加も一定数あった。

②性 別

男性	女性
10 名	19 名

■全体では女性が 3 分の 2 を占めたが、講座によって偏りがあった。

③住 所

多賀城	塩釜	仙台	他市町
16 名	3 名	8 名	2 名

■多賀城市在住者が 6 割を占めた。また、岩沼市、大和町など遠方からの参加もあった。

成果

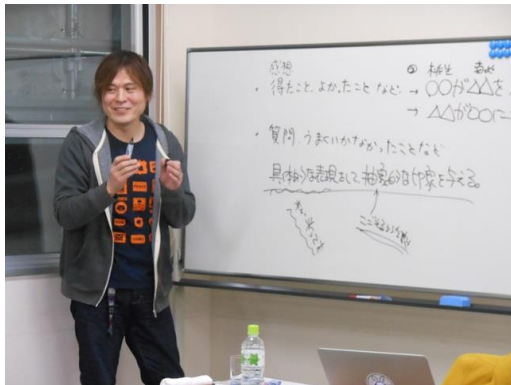
- ・全体的に講座参加者の満足度は高いことから、参加者に各テーマのノウハウを提供することができた。
- ・市民ライターやイベントづくりの講座では、参加者の多くが学んだことを生かして今後活動していきたいと考えており、実際の活動やイベント企画につながった。
- ・昭和の多賀城講座では、講座参加者こそ少なかったものの、昔の多賀城についての参加者の気づきが多くあった。また、館内に展示した昔の多賀城の写真に多くの利用者が見入り、利用者同士やスタッフと話しをする様子が見られるなど関心を持ってもらうことができた。

次年度に向けた課題	・参加動機がノウハウを身につけたいという方が多く、地域での活動につながりにくかった。 ・講座後に参加者が具体的なアクションを起こし、継続的な活動につなげていくために、講座内容や回数の工夫や、スタッフのフォローアップ体制強化など、仕掛けづくりがより一層必要である。 ・講座終了後に「参加したかった」という声があったことから、テーマに関心のある層への情報発信が十分とはいえなかった。講座に参加してほしい対象者を踏まえ、チラシの配架箇所など広報の工夫が必要である。 ・サロン系事業など他事業との連携を行い、参加者のステップアップになるような企画をしていく。 ・今回、子連れで参加の方がいたことから、今後は企画の内容や対象者によっては託児について考える必要がある。
-----------	--

* 添付資料 ■チラシ ■当日配布資料

■「A Charming Point！」(市民ライター養成講座で参加者が書いた記事をまとめたフリーペーパー)

【市民ライター養成講座～あなたの文章で「まちの魅力」を発信しよう！】



文章の書き方の説明をする
講師の菊地正宏さん



聞き手と話し手に分かれて
インタビューの練習中

【写真で見つける昭和の多賀城講座】



写真や地図を見ながら知っている
ことを出しあう



写真の読み取りについて話す
講師の佐藤正実さん

【まちをおもしろくする手づくりイベントのはじめ方】



まちフェスの説明をする講師の
阿部結悟さん



イベントの企画作りワークショップ
の様子

事業名	(2) 自治活動支援事業 2) 活動お役立ち専門相談
目的	市内のNPO、自治会・町内会の組織力・運営力の向上を図るため、各々の活動や運営に適したテーマで専門相談会や講座を行って、市民力・自治力を育み、市民活動・地域活動を地域の力に変えていく。
実施概況 ・開催日 ・講師 ・プログラム内容 ・参加人数	＜実施状況＞ ①プロが教えるチラシづくり実践講座 日 時：平成 25 年 6 月 15 日（土）13:30～16:00 講 師：大泉浩一さん（一般社団法人メディアデザイン／編集者・ライター） 対 象：自治会・町内会、NPO・市民活動団体など 参 加：16 名／定員 15 名 内 容：「5W2H」「キャッチコピー」など、広報の基礎部分を導入した後、チラシのレイアウトやラフデザインの実技指導を行い、伝わりやすいチラシづくりのポイントを紹介した。 ②助成金だけじゃない！NPOの資金づくり個別相談会 日 時：平成 25 年 8 月 3 日（土）10:00～16:10（1 団体 50 分） 相談員：鈴木祐司さん（一般財団法人地域創造基金みやぎ／常務理事 ・チーフプログラムオフィサー） 対 象：NPO、市民活動団体など 参 加：4 団体／定員 5 団体 内 容：寄付の呼びかけ方や実施事業における収入科目の見直しなど、助成金以外の資金調達方法について具体的なアドバイスを行った。また、団体の自主財源・自己収入だけで安定した活動を継続する大切さなど、相談団体の状況に適した個別相談を行った。 ③会議の進め方講座 日 時：平成 25 年 10 月 6 日（日）13:30～16:00 講 師：真壁さおりさん（NPO法人地星社／副代表理事） 対 象：自治会・町内会、NPO・市民活動団体など 参 加：10 名／定員 15 名 内 容：会議において課題となっていることをグループワークで共有し、他の参加者と悩みを共感していきながら、各々の解決方法を見出していった。講師からは円滑に合意形成できるノウハウを紹介した。 ④情報発信初級講座 日 時：平成 25 年 11 月 29 日（金）19:00～21:00 講 師：伊東利光さん（一般社団法人メディアデザイン／ライター ・WEBクリエイター）

対 象：NPO・市民活動団体など

参 加：11 名／定員 15 名

内 容：「ホームページ」「ブログ」「Facebook」「Twitter」など、インターネット上での情報発信ツールを紹介した。また、それらのツールが見る側に与える効果など、事例をもとに紹介した。

⑤活動と仲間の輪が広がる個別相談会

日 時：平成 26 年 2 月 15 日（土）11:00～16:10（1 団体 50 分）

相談員：小野寺美厚さん（NPO 法人ネットワークオレンジ／代表理事）

対 象：NPO・市民活動団体など

参 加：3 団体／定員 4 団体

内 容：「仲間づくり」「活動の広げ方」のポイントとなる情報公開の大切さや、団体の運営方法について具体的なアドバイスを行った。

<受講者分析（アンケート結果）>

①プロが教えるチラシづくり実践講座

【参加者 16 名】

○所 属

NPO	町内会	企 業	個 人	行政関係	その他
7名	4名	0名	0名	4名	0名

○講座の理解度(5 段階評価 数値が大きいほど理解度が高い)

5	4	3	2	1	無記入
11名	4名	0名	0名	0名	1名

②助成金だけじゃない！NPOの資金づくり個別相談会

【参加者4団体（5名）のうち※5名の内、1名がアンケート未提出】

○所 属

NPO	町内会	企 業	個 人	行政関係	その他
3団体	1団体	0団体	0団体	0団体	0団体

○相談会の理解度(5 段階評価 数値が大きいほど理解度が高い)

5	4	3	2	1	無記入
3名	1名	1名	0名	0名	0名

③会議の進め方講座

【参加者10名】

○所 属

NPO	町内会	企 業	個 人	行政関係	その他
1名	7名	1名	0名	0名	1名

○講座の理解度(5 段階評価 数値が大きいほど理解度が高い)

5	4	3	2	1	無記入
5名	4名	0名	0名	1名	0名

④情報発信初級講座

【参加者 11 名】

○所 属

N P O	町内会	企 業	個 人	行政関係	その他
4名	1名	0名	0名	0名	6名

○講座の理解度(5 段階評価 数値が大きいほど理解度が高い)

5	4	3	2	1	無記入
6名	3名	1名	1名	0名	0名

⑤活動と仲間の輪が広がる個別相談会

※アンケートではなく、相談会后個別にヒアリングを行った。

【参加者 3 団体（4 名）】

○所 属

N P O	町内会	企 業	個 人	行政関係	その他
3団体	0団体	0団体	0団体	0団体	1団体

○相談会の感想

- ・団体情報を公開し、透明性のある活動を知ってもらうことで、周囲への共感・信頼につながることを学んだ。
- ・団体の活動が継続できるよう事業収入を見直し、助成金に頼らない運営をしていくことを心がけていきたいと思った。

<運営面で取り組んだこと>**■講座・相談会後の継続相談**

講座・相談会終了後、アンケートで希望する参加者を対象にスタッフから連絡を取り、講座・相談会の感想から現在の活動や課題についてのヒアリングを実施した。継続した相談になる場合は、当センターへ来館いただき、市民活動相談につなげ、活動の後押しを行った。

■参加者に寄り添った講座運営

講座中、参加者のグループワークにスタッフが入り、参加者との交流を通して、関係性づくりに務めた。講座終了後には、会場に留まって話す機会も生まれた。その後の継続相談には、参加者と同じグループに入ったスタッフから連絡することによって、本題から相談に入ることができた。

成果

- ・講師の専門性を活かしながら、団体の実情に沿った情報やすぐに活用できるノウハウを提供することができた。講座や相談会をきっかけに、チラシにイラストを盛り込む工夫や、参加費の見直しを行うなど、改善に向けてすぐに行動する団体があり、市民活動団体、自治会・町内会の広報、資金調達、合意形成、利用者・支援者集めの力の向上につながった。
- ・受講後にスタッフからフォローアップの連絡を入れたことから相談につなが

	り、継続的な支援体制をつくることができた。そのことにより、講座のテーマにとどまらず、チラシ印刷費の節約、地域サロンのゲスト探しなど、他のテーマの相談を受けることにもなった。講座をきっかけに当センターの他の機能の活用につなげることができた。
次年度に向けた課題	・長年の慣例があるためメンバーや役員への理解が得られにくく、講座で学んだことが現場に活かせないという声が特に自治会・町内会から寄せられた。今後は、改善後に得られるメリットなど、ノウハウとともに根拠も一緒に持ち帰ってもらうことで、団体内での理解が得られるような工夫をしていく必要がある。

※添付資料 ■チラシ ■当日配布資料

①プロが教えるチラシづくり実践講座



②助成金だけじゃない！NPOの資金づくり個別相談会



③会議の進め方講座



④情報発信初級講座



⑤活動と仲間の輪が広がる個別相談会



事業名	(3) 5 周年記念事業
目的	多賀城市市民活動サポートセンター（以下、T S C）の相談等の機能を活用した地域活動・市民活動の事例紹介を通して、 ①5 年間の成果を広く市民に発信する。 ②市民のさらなる利用促進につなげる。
仕様	タイトル：たねまく～地域をつくる 17 のエピソード ページ数：30 ページ（表紙含む） サ イ ズ：B 5 判（無線綴じ冊子印刷・縦型） カ ラ ー：フルカラー 発 行：平成 26 年 3 月 部 数：2,000 部
成果	・さまざまな利用者の声をもとに、T S Cが多賀城で果たしてきた役割やまちの変化を明らかにすることができた。 ・利用の実例を通して、T S Cの活用方法を親しみやすいかたちで伝えることができた。
次年度に向けた課題	多賀城市内の関係機関、周辺市町の関係機関、全国の支援センターなどに T S Cの成果を発信するとともに、H26 年度に行う予定のリニューアルオープンなど、これまで市民活動や地域活動に関わったことがない方への配布を通してさらなる利用促進につなげる。

* 添付資料 ■「たねまく～地域をつくる 17 のエピソード」

事業名	(4) 市職員研修事業
目的	多賀城市市職員に、市民による問題解決行動（市民活動）と協働の本質について事例を通して理解し、協働に必要な共感力・対話力を高めることで、協働推進の基盤をつくることを目的とする。
実施概況 ・開催日 ・講師 ・プログラム内容 ・参加人数	日 程：平成 25 年 11 月 26 日(火) 10:00～12:00 現場体験 体験先：・片平地区まちづくり会 ・「将監沼の自然」とふれあいを育む会 14:00～16:00 現場体験のふりかえり 会 場：うれしや 平成 25 年 11 月 28 日(木)13:30～16:30 ワークショップを実施しながら、共感をもとにした関係性の築き方を学ぶ 講 師：足立千佳子さん 参 加：10 名（定員：10 名）男女比は半々、若い年代が多い。
成果	・満足度平均 4.8、理解度平均 4.5 と高評価の講座となった。 ・現場体験を通じて市民の課題解決力を知ってもらうことができた。 ・市民と課題や思いを共有するには、共感に基づくコミュニケーションが必要なことは理解していただいた。
次年度に向けた課題	・研修のゴールをより明確に示す。 ・事例から学んだことを実践に活かしていくところでは、動機づけやプログラムの工夫などがさらに必要である。 ・体験を軸にインプットのあとのアウトプットを自分事として考える工夫が必要である。 ・研修を受けた個人にしか内容がとどまらないので、市民との対話の前に市の中で共有することが必要である。 ・市民活動の本質の理解をひろげ、協働推進の基盤形成に向けて、次年度以降も体験を軸に、対象者の在職年数や職位にあわせたプログラムづくりを行う。 ・単年度ではなく、長期的な視点を持った研修も検討する。

事業名	(5) 事務用ブース入居団体インキュベート相談
目的	インキュベートとは「ふ卵器」の意味である。当センターの機能の1つである事務用ブースに入居している団体に対し、定期的に個別相談を開く機会を設けている。 団体が入居している期間、活動や課題をヒアリングし、情報提供から継続的かつ安定した団体運営ができるようノウハウ提供している。また、団体が独立した活動拠点を確保できるよう「自立・自律」に向けた団体運営も後押しする。
実施内容	入居6ヵ月ごとに、団体の代表者や事務局を担うスタッフとTSCスタッフとの個別面談を実施する。1団体あたり約1時間程度、活動や運営の現状の把握、課題の整理、解決に向けた情報提供やアドバイスを行った。相談内容は、資金調達、会員の増やし方、事業展開の方法など、団体運営や活動に関する内容が多かった。 実施日： 平成 25 年 5 月 27 日（月） 壺の碑全国俳句大会実行委員会（平成 22 年 6 月入居）【退去報告】 平成 25 年 5 月 27 日（月） NPO 法人パソコン要約筆記文字の都仙台（平成 23 年 11 月入居） 平成 25 年 7 月 26 日（金） 宮城県キャンプ協会（平成 24 年 1 月入居） 一般社団法人COM 'S（平成 25 年 1 月入居） 平成 25 年 10 月 18 日（金） ココロ★のびのびプラネット（平成 25 年 4 月入居） まちづくりNPOげんき宮城研究所（平成 25 年 4 月入居） 平成 25 年 12 月 16 日（月） 宮城県キャンプ協会（平成24年1月入居）【退去報告】 塩釜子ども劇場（平成23年6月入居）
成果	・団体の活動経過や事業の進捗状況をヒアリングすることで、当センターからどのような支援が必要なのかを見出し、事業立案や工程管理など団体運営力向上につながった。 ・インキュベート相談を通して、団体とスタッフとの信頼関係が強くなり、相談会以外においても、来館時には気軽に相談してくれる関係性ができた。
次年度に向けた課題	・団体が多賀城の地域に根ざした活動を展開していくことで、様々な団体・個人と価値を共有し、多賀城における地域コミュニティの種を生み出すこと。 ・事務用ブースが団体に与える効果として最も高いものに「荷物置き場」「メ

	ンバーとの集合場所」「立地条件」など、ハード面についての声が多くあがった。その反面、「マネジメント相談」「情報提供」「他団体・機関へのマッチング」など、ソフト面について効果が乏しかった。今後、多賀城における事務用ブースの役割を再考する必要がある。
--	--

事業名	(6) 出前さぼせん
目的	①市民全般(特に家族連れや 40 代～50 代)を対象に地域イベントや講座情報、市民活動団体の情報、各種サービス情報を提供する。 ②普段 TSC を利用しない市民に対して、TSC の役割・機能を認知していただき、利用促進につなげる。
実施概況 ・開催日 ・場所 ・人数 ・実施内容	出前さぼせん in みんなのマルシェ 2013 開催日時：平成 25 年 6 月 1 日(土) 10:00～16:00 開催場所：JR 仙石線多賀城駅前半円公園 スタッフ：近藤 齋藤 阿部 来訪者数：60 名(ワークショップへの参加状況より推定) 実施内容：『みんなのマルシェ 2013』の出店ブースの一つとして TSC が情報提供コーナーを設置し、親子連れを中心とした多くの若い世代の来場者をターゲットとして、ドット絵のワークショップを実施した。多くの親子連れを呼び込むことができ、TSC の場所や置いてあるチラシの内容について説明することができた。 出前さぼせん in スポーツフェスティバル 開催日時：平成 25 年 10 月 14 日(月) 体育の日 9:30～15:00 開催場所：多賀城市総合体育館 TSC コーナー スタッフ：齋藤 阿部 実施内容：多賀城市総合体育館の 1 階中央部分に TSC コーナーを設けた。主な実施内容は以下のとおり。 ①TSC で実施するイベントや講座の紹介 ②TSC に配架してある市民活動団体のパンフレット紹介 ③定期発行している tag の紹介(バックナンバーを含む) ④たがさぼの場所や機能の紹介
成果	・イベントに合わせて内容を変えながら TSC で実施するイベントや講座の紹介、tag の紹介ができて、TSC の場所や機能の認知拡大につながった。
次年度に向けた課題	・TSC の認知度は確実に上がっているが、市内イベントへの参加が直接 TSC の認知度の向上や利用促進につながっているかは計りにくい部分がある。したがって、次年度以降に市内イベントへ参加するのであればどのような形にするのかを再検討する。



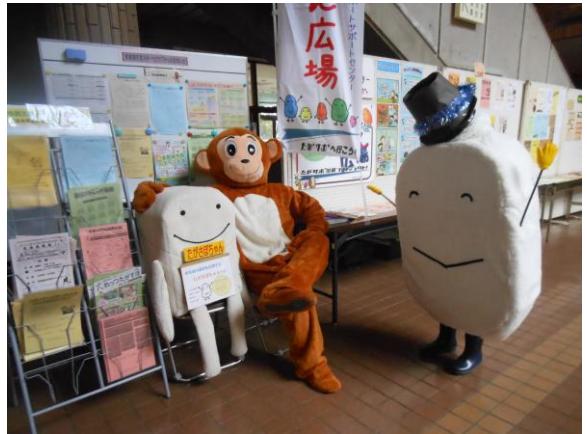
みんなのマルシェでドット絵を貼る子どもたち



みんなのマルシェでたがさぼのブースに
集まる親子連れ



スポーツフェスティバルでの出前サポセン



マスコットキャラクターたがさぼちゃん

(7) ホームページ・ブログ・ツイッターの運用

■ホームページ・ブログについて

		ホーム ページ	ブログ
		訪問者数	訪問者数
		件	件
平成 20 年度			7,389
平成 21 年度		9,777	15,889
平成 22 年度		98,038	42,105
平成 23 年度		196,154	76,607
平成 24 年度		58,685	20,056
平成 25 年度	4 月	5,831	2,200
	5 月	5,597	2,106
	6 月	5,178	2,110
	7 月	6,438	1,768
	8 月	4,708	2,272
	9 月	5,090	1,786
	10 月	4,667	2,189
	11 月	5,619	1,843
	12 月	7,528	2,415
	1 月	5,233	1,952
	2 月	4,321	2,054
	3 月	4,444	2,262
平成 25 年度計		64,654	24,957

ホームページは、平成 21 年 12 月 25 日に開設し、T S C のストック情報を中心に公開・発信している。スタッフブログは、平成 20 年 7 月 19 日に開設し、T S C のフロー情報を中心に公開・発信している。

平成 22、23 年度は東日本大震災に関する支援情報や被災状況について集中的に発信したため訪問者数が急増した。平成 24 年度から通常どおり T S C のサービス紹介や講座・イベント情報を中心に発信したため訪問者数は震災直後と比べると低い数値となった。

ブログに関して、平成 24 年度 10 月から曜日ごとにテーマを設定して閉館日以外は毎日更新し、平成 24 年 1 月からは情報誌「tag」にてブログを紹介するコーナーを設けたことによって訪問者数の増加につなげた。

今年度も継続して曜日ごとのテーマ設定、毎日更新、「tag」との連動を行った。10 月に曜日ごとのテーマを再編し、11 月には再度テーマの再編と更新頻度を週 4 回へ変更をして、より質の高い情報の提供と掲載情報の整理を行った。また、情報誌「tag」との連動や市内イベント・団体情報の掲載が要因となり訪問者数が増加し、平成 24 年度の月平均が 1,671 件であったのに対して平成 25 年度は 2,080 件であった。

次年度は、T S C の運営方針に合わせて地域課題に関してのデータ、モデル事例等の発信も強化していく。

■ツイッターについて

ツイッターは、平成 23 年 9 月 1 日に開設。主にブログの更新と開館日・開館時間をお知らせした。

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
フォロワー※1	751	1,880	1,984
フォロワー※2	422	1,092	1,371

※1…TSCが見ている情報のアカウント

※2…TSCが見られている情報のアカウント

今年度もブログ更新やT S C事業の告知を行い、フォロワーに対して広くT S Cの情報を届けることが出来た。今後も継続してフォロワーを増やし、普段T S Cに来館しない方にも情報が行き渡る工夫をする。

(8) たがサポ文庫の運用【自主事業】

たがサポ文庫とは、情報サロン内にある市民活動、NPO、地域活動などに関する書籍を集めた図書貸出コーナーとして平成21年6月1日より貸出を開始した。

広報、会計、労務など団体のマネジメントに関する書籍、市民活動の入門ガイドとなる書籍、市民活動の各分野（福祉・まちづくり・子ども・環境など）の専門書のほか、ハウツーや多賀城に関する書籍を中心にそろえている。また、東日本大震災後は、震災に関する書籍も積極的に収集し貸し出している。

<蔵書数>

806冊（平成26年3月現在）

<概要>

- ・事前登録により、貸出カードを発行。
- ・1人2冊まで、貸出期間は2週間。



平成25年度書籍貸出件数（平成25年4月～平成26年3月）

		貸出図書		
		登録者数	貸出件数	貸出冊数
		人	件	冊
平成20年度				
平成21年度		37	100	132
平成22年度		19	132	109
平成23年度		24	76	116
平成24年度		29	122	158
平成25年度	4月	4	20	29
	5月	3	8	12
	6月	2	9	12
	7月	1	11	13
	8月	2	10	13
	9月	0	10	15
	10月	0	4	4
	11月	0	4	5
	12月	0	5	9
	1月	3	11	15
	2月	2	4	6
	3月	1	2	4
平成25年度計		18	98	137

平成25年度は前年度と比較し、登録者数、貸出件数、貸出冊数がいずれも減少している。要因としては、改修工事によって10月～12月の期間に貸出を制限していたこと、前年度に比べ震災関連図書に対しての関心が低かったことが挙げられる。

また、ブログや情報誌「tag」にブックレビューのコーナーを設けたが、利用の増加には直接つながらなかった。

一方で、相談対応で活用する場面や繰り返し借りるリピーターも見られるため、活動において有用な図書であることがうかがえた。

次年度以降は、各分野での課題解決にあたり参考となる専門図書やこうした課題や地域づくりに利用者が触れるきっかけとなるような読みやすい図書をそろえる。また、同時に利用者が手に取りやすくなるような棚づくりを進める。

4. 相談対応実績

(1) 相談対応の流れ

●相談対応

市民活動に関する相談は、開館時間中にいつでも対応できるような体制を整備している。

↓

●記録

- ・ 相談対応票に記録
- ・ 相談を分類

支援対象について：主に初めて利用する方に対して、団体の目的や活動内容を確認し、施設の設置趣旨と照らした上で、支援対象か否かを判断している。

施設利用相談：施設の利用方法などの問い合わせに対するもの

市民活動相談：ホップ…NPO基礎情報、ボランティア相談、市民活動団体の情報提供
ステップ…任意団体立ち上げやNPO法人化に関する相談
ジャンプ…資金調達、広報など団体運営に関する相談

受益者からの相談：NPO等のサービスを求めている方からの相談

その他：サポートセンターの運営についての問い合わせなど

↓

●共有

- ・ 継続対応が必要なものは、1日2回の申し送りの時間にスタッフ間で共有
- ・ 月2回（1回あたり2時間程度）ケースミーティングの開催

すべての相談対応をスタッフ及び担当理事、地域コミュニティ課職員で共有し、各相談対応の経過確認を行い、継続事案にあっては以後の対応方針の決定、相談対応研修、業務改善等につなげている。

(2)相談対応実績

1. 相談件数、人数、属性など

		H20	H21	H22	H23	H24	H25														
人数、属性など		総計	総計	総計	総計	総計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計	総計	
相談件数(件)		297	309	354	527	287	11	34	35	26	27	16	8	13	18	18	11	9	226	2,000	
開館日(日/月)		253	305	289	306	306	26	26	26	26	27	24	26	26	23	23	24	27	304	1,763	
件数平均(件/日)							0	1	1	1	1	1	0	1	8	1	0	0			
人数(人)		348	374	386	645	375	11	39	55	57	36	16	9	14	20	24	15	11	307	2,435	
対応時間月計(分)		5,558	6,345	7,434	10,476	7,664	180	940	960	595	780	467	115	200	250	450	205	270	5,412	42,889	
対応時間平均(分/日)							7	36	37	23	29	20	4	8	11	20	9	10			
対応時間平均(分/件)		19	21	21	20	27	16	28	27	23	29	29	14	15	14	25	19	30	22	129	
対面	件数(件)	235	235	267	322	187	6	25	25	16	22	9	6	9	8	13	8	5	152	1,398	
	対応時間月計(分)	4,858	5,789	6,572	8,463	6,481	135	825	785	490	735	415	100	160	170	415	180	175	4,585	36,748	
	対応時間平均(分/件)						23	33	31	31	33	46	17	18	21	32	23	35			
電話	件数(件)	58	67	81	195	87	5	9	9	10	4	7	2	4	10	5	3	4	72	560	
	対応時間月計(分)	605	501	656	1,944	1,008	45	115	165	105	40	52	15	40	80	35	25	95	812	5,526	
	対応時間平均(分/件)						9	13	18	11	10	7	8	10	8	7	8	24			
その他		件数(件)	4	7	6	9	13	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	41	
		対応時間月計(分)	95	55	206	39	175	0	0	10	0	5	0	0	0	0	0	0	0	15	585
相談者属性	市民活動団体(件)	85	82	106	155	99	3	16	13	8	12	4	1	3	7	5	5	3	80	607	
	自治会・町内会(件)	13	14	25	18	27	0	3	4	3	2	2	0	0	2	0	2	0	18	115	
	生涯学習団体(件)	61	31	39	59	11	1	1	1	0	1	0	0	1	1	1	1	0	8	209	
	行政・外郭(件)	17	16	25	24	23	1	4	2	6	2	1	4	2	2	1	0	1	26	131	
	企業関連(件)	19	24	30	56	23	0	1	2	2	0	0	1	3	1	3	0	0	13	165	
	学校・学生(件)	9	7	9	19	11	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	57	
	マスコミ・議員(件)	2	2	2	7	2	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	2	17	
	個人(件)	65	88	81	127	62	6	2	7	5	8	8	1	3	2	6	0	3	51	474	
	その他(件)	26	45	33	62	30	0	7	5	2	1	1	0	1	2	2	3	1	25	221	
初来館	初来館者(人)	126	97	99	165	88	5	12	9	9	11	7	3	5	5	6	2	5	79	654	
	どこで知ったか	公共施設(人)	37	23	34	46	16	2	1	4	2	5	1	0	1	2	2	0	3	23	179
		ロコミ(人)	14	15	8	24	18	0	4	1	0	3	1	2	0	0	1	1	1	14	93
		SOホームページ(人)	11	15	24	29	21	1	4	0	3	1	2	0	3	2	2	0	1	19	119
		その他(人)	64	44	33	66	33	2	3	4	4	2	3	1	1	1	1	1	0	23	263

2. 相談内容の内訳

(1)支援対象について

相談件数(件)		97	99	94	163	73	1	8	6	8	7	5	3	7	5	6	1	0	57	583
対応時間(分)		1,217	1,185	1,003	1,857	855	15	185	60	90	95	62	45	75	45	50	5	0	727	6,844
対応時間平均(分/件)							15	23	10	11	14	12	15	11	9	8	5	0		
利用目的	貸室(件)	77	69	62	116	59	1	3	5	6	3	3	2	4	5	5	0	0	37	420
	印刷室(件)	9	16	27	19	5	0	3	0	0	2	1	1	1	0	1	1	0	10	86
	チラシ(件)	6	10	4	9	6	0	0	1	2	0	1	0	2	0	0	0	0	6	41
	ポスター(件)	2	0	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
	その他(件)	3	4	0	5	3	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	4	19

(2)施設利用相談

「施設利用相談」(件)		72	25	46	60	13	1	1	2	1	2	0	0	0	3	0	0	1	11	227
対応時間(分)		866	270	599	643	136	5	20	45	15	40	0	0	0	25	0	0	20	170	2,684
対応時間平均(分/件)							5	20	23	15	20	0	0	0	8	0	0	20		
場の提供	貸室(件)	46	11	19	34	2	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	3	115
	フリースペース(件)	2	1	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	8
	ロッカー(件)	3	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
	レターケース(件)	3	1	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	9
	共同事務室(件)	2	4	1	6	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15
	展示スペース(件)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	駐車場(件)	0	0	3	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	8
	備品(件)	2	0	2	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
情報関係	その他(件)	3	2	6	9	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	23
	PC(件)	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	4
	インターネット(件)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	コピー機・印刷機(件)	6	2	7	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	18
	チラシ・ポスター(件)	13	2	4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20
	サポートセンターHP(件)	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	サポートセンター情報誌(件)	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	3
	その他(件)	2	3	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8

(3)市民活動相談

「市民活動相談」(件)		84	163	173	215	164	7	23	20	16	15	11	5	6	9	11	10	6	139	938
対応時間(分)		2,500	4,083	5,267	5,527	5,708	80	715	685	470	455	405	70	125	120	370	200	140	3,835	26,920
対応時間平均(分/件)							11	31	34	29	30	37	14	21	13	34	20	23		0
ホップ	団体情報の問い合わせ(件)	21	47	41	56	46	3	11	7	5	4	5	4	2	2	5	2	3	53	264
	ボランティア相談(件)	6	16	24	35	10	2	1	0	3	0	3	0	0	1	1	2	0	13	104
	NPO基礎情報(件)	10	3	3	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	22
	その他(件)	14	8	9	20	13	0	5	1	0	0	0	1	1	1	0	1	0	10	74
ホップ計		51	74	77	113	72	5	17	8	8	4	8	5	3	4	6	6	3	77	464
ステップ	任意団体の立ち上げ(件)	7	23	12	5	7	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	55
	NPO法人の設立(件)	2	2	1	2	8	0	0	0	0	1	0	0	1	1	1	0	0	4	19
ステップ計		9	25	13	7	15	0	0	0	0	1	1	0	1	1	1	0	0	5	74
ジャンプ	団体運営	団体PR(件)	4	10	31	12	3	0	1	3	3	1	0	0	0	1	0	0	9	69
		イベント運営(件)	9	25	18	38	17	0	0	3	4	4	1	0	1	2	0	2	18	125
		助成金(件)	0	2	2	9	14	0	2	0	0	2	0	1	0	1	1	0	7	34
		会計(件)	0	3	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	8
		ボランティア募集(件)	0	2	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	3	7
		人材育成(件)	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
		その他(件)	7	16	27	18	32	1	3	4	0	1	0	0	1	0	1	2	13	113
	その他(件)	3	3	2	17	10	0	0	1	0	2	1	0	0	0	1	0	0	5	40
ジャンプ計		24	64	83	95	77	2	6	12	8	10	2	0	2	4	4	4	3	57	400

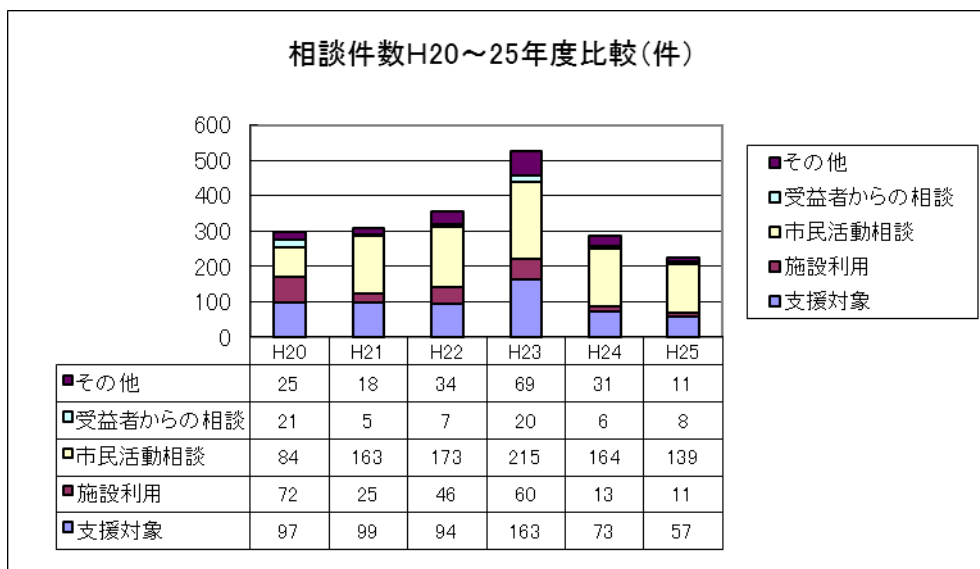
(4)受益者からの相談

「受益者からの相談」(件)	21	5	7	20	6	2	0	3	0	0	0	0	0	0	1	0	2	8	67
対応時間(分)	520	40	110	365	130	80	0	90	0	0	0	0	0	0	30	0	110	310	1,475
対応時間平均(分/件)						40	0	30	0	0	0	0	0	0	30	0	55		

(3) 相談件数

総件数 226 件（月平均 18.8 件）

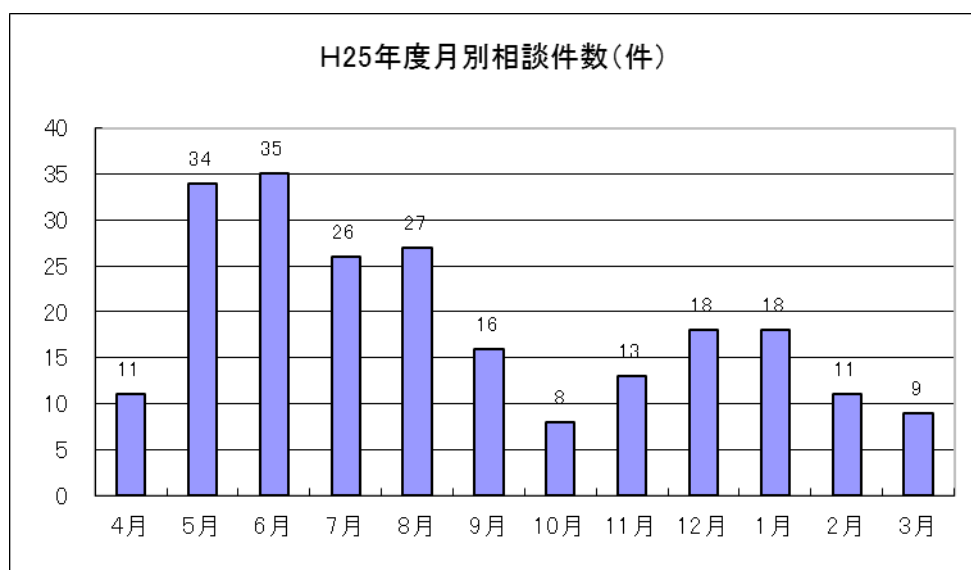
対応時間 5,412 分（月平均 451 分、1 件平均 23.9 分）



平成 25 年度の相談件数は、226 件だった。

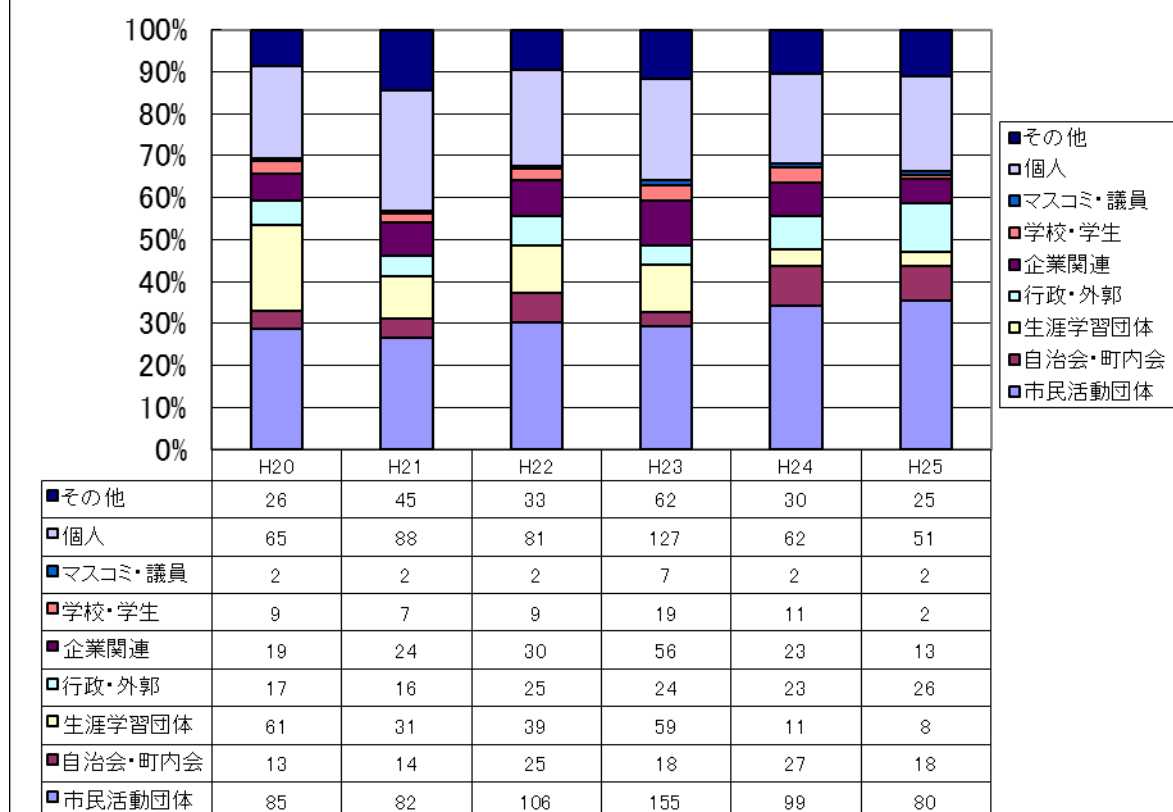
平成 20～24 年度でみる年間の相談件数の平均は 333 件で、平成 25 年度は件数が減少している。6 月～3 月まで行われた改修工事の影響により、落ち着いて話ができる場の確保や情報提供に必要な資料の整備など、相談対応する環境が十分に整えることができなかったことが原因といえる。

相談の種類では、市民活動相談が最も多く、ついで支援対象、施設利用、受益者からの相談と続く。市民活動相談の内訳は次ページ以降で分析を行う。



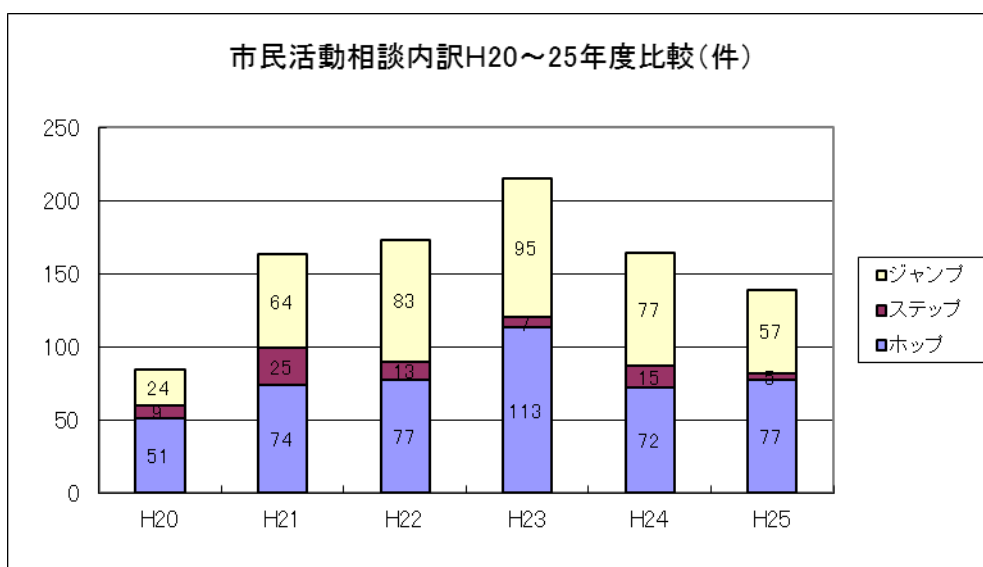
月別相談件数をみると、年度の始まりの 5・6 月、活動が活発になる 7・8 月に相談件数が多い。それ以降は改修工事が本格化したことで、件数の減少が顕著である。

相談者属性H20～25年度比較(件)



相談者の属性をみると、市民活動団体が多く、ついで個人、行政・外郭、自治会・町内会と続いている。昨年度までに比べ、行政・外郭からの相談の割合が増え、T S Cが行政や行政の窓口で対応する市民と市民活動団体や地域活動団体とをつなぐ役割があることを少しずつ認識されてきたといえる。

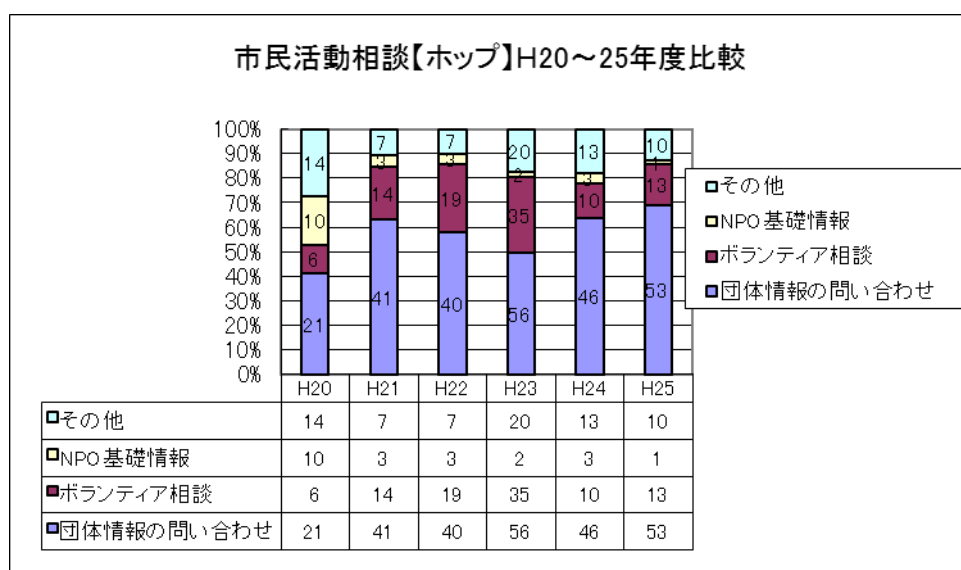
(4) 市民活動相談の内訳



市民活動相談の中で一番件数が多かったのは、市民活動団体の情報提供、ボランティア相談などのホップ段階の相談だった。イベント運営、資金調達など団体運営に関する相談のジャンプ段階の相談が次に続いた。

1) ホップ

…NPO基礎情報、ボランティア相談、市民活動団体の情報提供など



団体情報の問い合わせが最も多く、ついでボランティア相談が多かった。

団体情報の問い合わせは、上半期は、退職・転居などに伴い、新たにサークル活動やボランテ

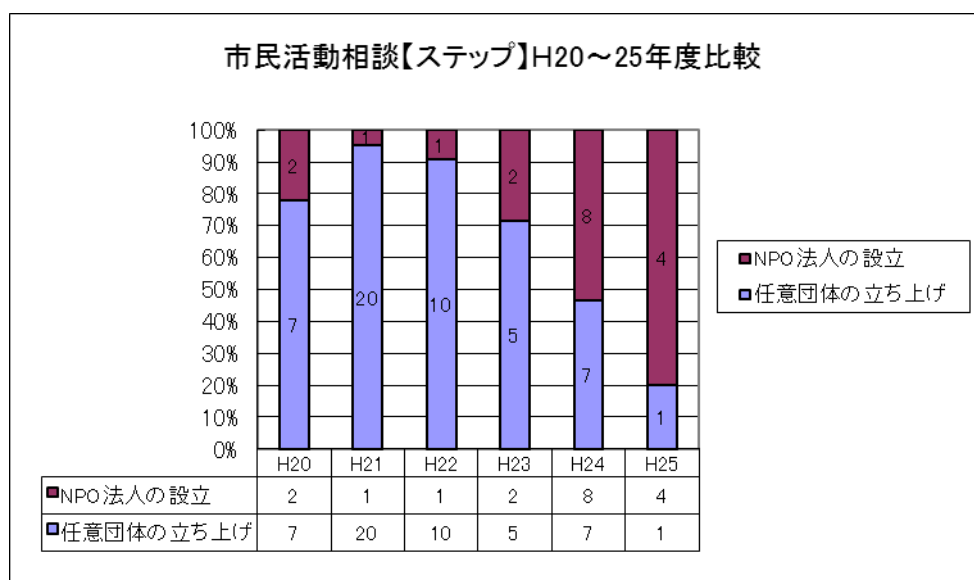
ィアを始めたいという方からの問い合わせが多かった。新たな活動の担い手となり得る層の方なので、情報誌やWEBでの情報発信にも反映させる。

また、自然災害に見舞われた地域への支援先や県外から市内で復興に取り組む団体の照会など、「自ら活動したい」だけでなく「活動を応援したい」際の問い合わせ先としても期待されている。

活動先・応援先を探す市民に加え、行政や公的機関など、支援を必要としている方の対応をする窓口からの問い合わせも増えており、引き続き多賀城を中心に周辺市町も含めた情報収集が必要である。

2) ステップ

…任意団体立ち上げやNPO法人化に関する相談

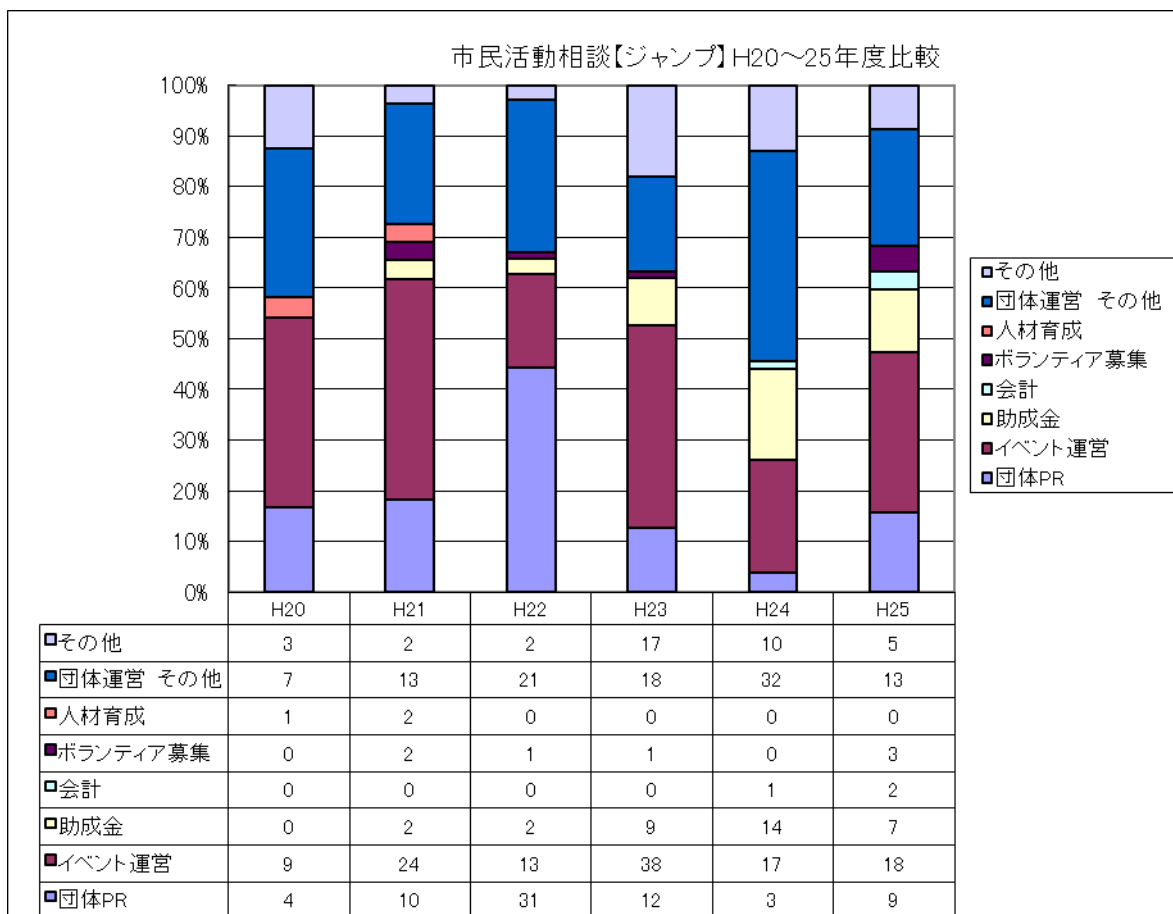


平成 25 年度は新たに団体を立ち上げて活動したいという相談の件数は少なく、相談の結果、新たな団体立ち上げにつながるものはなかった。

しかし、市外で活動している団体が多賀城での活動を新たに始めたいという相談が寄せられ、課題解決型の活動が多賀城で増えるきざしがみえる。相談者は活動を始める拠点としてTSCを捉えていることも多いが、地域の課題や相談者の思いを整理し、地域情報の提供もあわせて行うことで、地域に根差した活動ができるようなサポートを行っていく。

3) ジャンプ

…資金調達、広報など団体運営に関する相談



イベント運営に関するものが最も多く、次いで団体の運営、特に広報に関するものが多かった。

イベント運営に関する相談は、昨年度に引き続き被災した町内会を訪問しながら対応を行った。団体の広報に関しては、紙媒体に加え、SNSでの情報発信に対するアドバイスを行った。

今年度は自治活動支援事業のお役立ち専門相談や事務用ブース入居団体対象のインキュベート相談会とも連動し、事業から日常的な相談対応につなげ、資金調達や広報、団体内の役割分担などの面で継続的に団体運営のサポートを行うことができた。また、受講直後ではなく、時間が経過した団体からも相談が寄せられたことから、今後も講座運営後のアフターフォローも欠かさず行う。

Ⅱ

平成 25 年度成果と課題

・

平成 26～28 年度施設運営方針

1. 平成25年度成果と課題

事業等の取り組みからみえてきた成果と次年度に向けた課題を方針ごとにまとめると以下ようになります。

イ. 地域づくりを担う新たな「人づくり」と「場づくり」を応援します。

【主な取り組み】

参加・育成事業 サロン系事業
はじめる広場トークタイム
市職員研修事業

【成果】

○事業や相談を通して、地域活動・市民活動への関心度が高くない層が地域や社会の課題を知る、市民活動の本質への理解を深める、新たに活動に参加するなど、新たな人材発掘・育成につながった。
また、現在市民活動・地域活動を行っている人同士のつながる場、これまで多賀城にはなかったマイノリティの方が集える新たな場が生まれた。

【課題】

○事業や相談によって、これまで市民活動や地域活動に関わったことがない方の新規開拓はすることはできたが、活動を始めたり継続的に情報収集するなど、スタッフの声かけや市民活動や地域活動につながるフォローアップを行うことが必要である。
○来館される多様な方へのスタッフの対応力向上を図ることが必要である。

ロ. 力強い市民活動を実現していくために組織運営の強化を応援します。

【主な取り組み】

自治活動支援事業 小さなプロジェクトを起こそうプロジェクト
活動お役立ち専門相談

【成果】

○資金調達やスタッフの役割分担などの組織運営課題に対して、メンバー自らが解決に向けて取り組めるようなサポートを行い、助成金の獲得といった具体的な成果につながった。

【課題】

○情報提供にとどまらず、組織運営に関する相談対応力を高めるためにスタッフへのロールプレイや外部講師を招いてのマネジメントに関する研修などが必要である。

ハ. 多種多様な情報発信を強化します。

【主な取り組み】

参加・育成事業 月刊フリーペーパー「tag」発行事業
スタッフブログ「たがさぼPress」

【成果】

○地域づくりに関わったことがない方でも情報を入手しやすい発信の仕方を行ったことにより、ボランティア相談につながったケースや地域のキーパーソンの来館もあり、新たな担い手の発掘となった。

【課題】

○新たな担い手発掘のためには、情報の新たな届け先を開拓し続けることが必要である。

ニ. 地域づくりに関わる人と組織をつなぎ、復興に必要な「側面支援」を果たします。

【主な取り組み】

相談対応

【成果】

○被災者支援に取り組むNPOに対し市内のイベントや地域情報を提供することで、住民が外に出て地域とつながるきっかけづくりや、地域支援員を介して被災した2地区に対して自治会・町内会主催による夏まつり実施に向けて必要となる地域資源をつなぎ、被災コミュニティが再生に向け前進した。

【課題】

○地域支援員や復興支え合いセンター、各種支援団体など復興支援を行う人・団体に対して、災害公営住宅への入居開始や仮設住宅入居者のさらなる孤立無縁化など、復興の状況に合わせた側面支援の取り組みの立案が必要である。

全体総括

平成25年度『市民とともにまちの「広場」を創造・推進し、地元の人が主役となる地域づくりを進める』方針を掲げたが、改修工事による対応や施設予約システム導入準備への対応があり、地元の人が主役となる地域づくりを思うように進めることが困難だった。

改修工事では、騒音や粉じん、振動、臨時休館など貸室利用に制限があったこと、情報提供や相談対応できる環境が整わなかったことなど、従来のTSCの機能を十分に果たすことができなかった。また、利用者への告知やクレーム対応、業者との定期的なミーティングへの出席、貸室・事務局の物品移動などへの対応に労力が取られたことも、方針の実現を困難とする要因の一つであった。各種サービスの利用は前年度に比べほぼ減少し、改修工事の影響が大きく反映した結果となった。

平成26年4月からの施設予約システム導入に向けての研修も短期間で行われ、システムに関する課題

が積み残しのままに現在に至っている。

その中で、各事業において多様な市民が集う広場を設けたことで、少数ではあるものの「地域のために何かしたい」「ボランティアをしたい」といった想いを持つ新たな地域づくりの人材発掘と活動への参加の機会を創出した。

当センターの事業におけるフォローアップなどを通し、単発ではなく継続的な相談・支援ができる内部体制をつくることで、対応した団体が事業規模や地域とのネットワークを拡大したり、新たな地域資源を活用するなど、地域にある様々な主体が変化していることが成果といえる。

少しずつではあるが地域や社会の課題解決のために活動する人が増え、その人々がそれぞれ動き出すことにより市民主体の地域づくりの力が高まっている。

2. 多賀城市の現状

今、日本は人口減少社会、少子高齢社会を迎えている。15歳から65歳のいわゆる生産人口が減少し全国の各自治体の財政状況も厳しさを増し、これまでと同じような行政による公共サービスの提供が難しくなっている。そのような時代の変化の中で多様な「市民の力」が地域に新たな価値を生み出し、行政や企業と連携しながら進める新たな社会づくりがこれまで以上に重要となる。

多賀城市は、目指す将来都市像を示し、まちづくりの目的や目標を共有できる計画として『第五次多賀城市総合計画』（計画期間：平成23～32年度）を策定している。サブフレーズでは「～支えあい・学びあい・育ちあい～個人、家庭、町内会、市民活動団体、企業、学校、行政など、まちや地域を構成する多様な主体が、地域でお互いに支えあい、互いに学びあい、互いに力を合わせて成長しあえるまち」と協働によるまちづくりの重要性を示している。施策の中には「市民活動の充実」が含まれ、多賀城市市民活動サポートセンター（以下、TSC）は協働のまちづくりの拠点として位置づけられている。

また、東日本大震災からの復興に向けた羅針盤として策定された『多賀城市震災復興計画』の中では、「第五次総合計画を踏まえ、市民、町内会、NPO、企業など多様な主体のそれぞれが復興の主役となることや、それぞれの主体がお互いにつながる、支えあう、育ちあうことを基本に、復興に向けて取り組む」ことを復興理念に掲げている。

被災したコミュニティにおいては、コミュニティの担い手である住民の生活再建や拠点となる集会所の再建が進み、本来の地域活動を再開しつつある。

平成24年度は多賀城市職員と被災自治会・町内会とで震災ふりかえり事業が行われ、今後の地域づくりにつながる取り組みとなった。また地域支援員が導入され、町内会と他町内会、団体、行政等をつなぐ役割を果たしつつ、住民との信頼関係を構築しながら、地域コミュニティ再生の支援を進めている。

震災から3年が過ぎ、市外から入っていた支援は少なくなっているが、市民が主体となり新たな活動が生まれるなど動きが出てきている。

平成25年度多賀城市では話し合いによる地域自治の新たな仕組みとなる「地域づくり支援制度」の検討が行われた。また、震災によって中断していた学校地域支援本部事業のエリアの拡大、平成26年度から大代地区公民館の市民営化に向けた準備など、全市的に地域のことは地域住民の手で行う方向に進んでいるといえる。

また、平成27年度には多賀城駅前に図書館を核とする文化交流拠点がオープンすることになっており、文化に触れ創造するという点においても市民が活躍する機会が増えることが予想される。

これからの多賀城の地域づくりにおいて、市民が主役となり地域の魅力を高めたり、地域課題を解決したり、新たな価値を市民同士でつくる「市民の力」がますます重要となる。

3. 平成26～28年度施設運営方針

私たちが目指す多賀城のまちの姿

あらゆる地域資源を活かした市民による市民のためのまち

市民自らが地域にとって必要な価値を、市内外の地域資源を活かしながら他セクターとの協働でつくりだす。

平成28年のTSCの姿

市民の主体性が育まれる場所として、市民が自分たちの手で地域の魅力（文化の発信）を高めたり、課題解決に取り組むための、地域資源が集まり新たなつながりが生まれる市民活動の拠点となる。

TSC運営において私たちが当たり前として取り組むこと（前提）

TSCは市民活動の拠点施設として、平成20年の開館当初から市民が地域活動に参画する機会を促し、地域の担い手となる人材を発掘・育成し続けている。既存のNPO、自治会・町内会・生涯学習団体への継続的な支援を行うことはもちろん、当館利用者に向けては、必要なサービスや支援を開発し利用者の声に耳を傾けた柔軟な運営をすること、市民活動団体の情報・支援情報を蓄積し多様な市民・団体のニーズに応えること、NPO、自治会・町内会、企業、行政、公共施設、周辺市町と連携し包括的な地域づくりの一端を担うこと、市民の力を信じ、市民とともに地域に変革をもたらすこと、スタッフの支援能力の向上に努めることを前提として取り組む。

平成26年～28年までTSC運営において私たちが特に力を入れること

①コミュニティに関わる地元の新たな人材を発掘し育成する。

スタッフが直接地域に出向き顔の見える関係性を築きながら「自分たちの力で地域に必要なものをつくろう」という志のある人材を発掘し、将来的にNPO、自治会・町内会等のコミュニティのリーダー、あるいは地域資源のつなぎ役となるコーディネーターとなる人材を育成する。

また、地域づくり支援制度や地区公民館の市民運営など制度導入にあたり地域で求められる人材の発掘・育成も同時に行う。

②地域の魅力・課題を明らかにし、魅力を高めたり、課題の解決につながるモデルとなるような取り組みを生み出す。

市民の力で地域に既にある魅力を引き出しさらに高める。地域課題を可視化し、地域に発信し続けることで市民の当事者性を引き出す。特に今後、到来する少子高齢社会から生まれる課題に取り組む見本となるようなモデルを生み出す。

また、地域課題の把握のために多賀城市各課・各施設、専門家、企業などとの情報共有・交換を積極的に行い、地域課題の解決につながるネットワークを構築する。

T S C 3 年間の計画

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
人材の発掘・育成	○潜在的活動者の発掘 ○既活動者の利用促進 ○既存団体の個別相談対応 ○活動を生み出す事業の実施	○活動者の育成 ○地域コーディネーター育成	○地域のリーダー育成
モデル 魅力・課題解決の モデル	○地域課題の把握のための場づくり ○魅力発信のための場づくり	○地域課題解決に向けたネットワークづくり	○モデルの形成
組み 改修工事後の 取り組み	○リニューアル記念イベントの実施 ○新スペースの周知 ○新スペース利活用の仕掛けづくり	○検証・改善	

次年度は3年の事業委託の1年目にあたる。まずは受付業務を安定させることを前提とし、利用者との信頼関係をより深め、T S Cの機能・事業を通してさらなる力づけを行う。また、地域づくりを「知る」「学ぶ」「参加する」「生み出す」仕掛けづくりをし、将来の地域づくりのキーパーソンとなる新たな利用者、地域づくりの担い手、を輩出する。そして、セクターを越えた情報・資源を共有できる対等な場を丁寧につくり、地域課題の解決、地域の魅力を高める協働のモデルづくりのきっかけとする。